CG-WLBARAG

取扱説明書

PN Y613-03117-01 Rev.B

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLBARAG を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® NT4.0 .. Microsoft® Windows® NT Workstation operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE.... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

Windows® 98 .... Microsoft® Windows® 98 operating system

Windows® 95 .... Microsoft® Windows® 95 operating system

※本書では Windows® 98 と Windows® 98SE を含めて「Windows 98」と表記しています。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

使用環境を確認する

チェック1

プロバイダーとの契約、工事は完了していますか？

本製品を使ってインターネットに接続するには、フレッツ·ADSL、B フレッツなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダーによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2

モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムなどが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください。確認方法については、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。
本製品とパソコンを接続するには、LANケーブルが必要になります。LANケーブルを購入される場合は、カテゴリー５のLANケーブル（ストレートタイプ）のものをご購入ください。

チェック3

設定に必要な情報は準備できていますか？

本製品の設定を行う際に、各サービス別に以下の情報が必要です。プロバイダーとの契約時に、以下のような情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

PPPoE 接続の場合（フレッツ･ADSL など）	DHCP を利用する場合（Yahoo! BB･CATV など）	固定 IP アドレスで接続する場合（固定 IP サービス）
･ユーザー名 ･パスワード ･サービス名（プロバイダーから指定された場合のみ） ･DNS サーバーの IP アドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	･コンピューター名（プロバイダーから指定された場合のみ） ･DNS サーバーの IP アドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	･WAN 側の IP アドレス ･サブネットマスク ･ゲートウェイアドレス ･DNSサーバーのIPアドレス

上記の名称は、プロバイダーによって異なる場合があります。
例：ユーザー名→アカウント、ユーザー ID、ログイン ID など
ご不明な点は、ご契約のプロバイダーに確認してください。

チェック4

パソコンの環境はそろっていますか？

LAN コネクター（10BASE-T/100BASE-TX ポート）	LANコネクターがない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、LAN コネクターを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLANボード、LANカード、LANアダプターの取扱説明書をご覧ください。 ･ 拡張スロット（PCI バスまたは ISA バス）に LAN ボードを取り付ける ･ PC カードスロットに LAN カードを取り付ける ･ USB コネクターに LAN アダプターを取り付ける
OS	本製品は、Windows XP/2000/Me/98/95/NT 4.0、UNIX、Linux など、TCP/IP をサポートする OS に対応しています。
Web ブラウザー	本製品の設定は、Webブラウザー（フレームに対応しているもの）で行います。パソコンに Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされているか、確認してください。 **※設定は Windows をご使用ください。**

本製品の機能

本製品には、次のような機能があります。

・フレッツ・ADSL/B フレッツ対応
・WAN ポートは 10BASE-T/100BASE-TX 対応
・NAT/IP マスカレード機能で、複数のパソコンから同時にインターネット接続可能
・2 つのルーティング方式（スタティック、RIP）に対応
・DHCP クライアント / サーバー機能で簡単導入
・セットアップウィザードによる簡単インターネット接続
・簡単 Web 設定
・パソコンデータベースによるユーザー管理が可能
・詳細なアクセス制限が可能
・E-Mail 機能にてログ情報を送信可能
・NTP に対応
・DDNS（ダイナミック DNS）対応
・Web 管理ツールによりファームウェアのアップグレードが可能
・UPnP、NetMeeting、MSN Messenger、Windows Messenger などに対応

パソコンのネットワーク設定をしよう

本製品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。
次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OS の種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

- ・ネットワークアダプタの設定
- ・TCP/IP の設定

複数のパソコンをインターネットに接続させる場合、すべてのパソコンでネットワーク設定を行う必要があります。

■ Windows XP で利用するときは

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンして行ってください。ユーザー権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

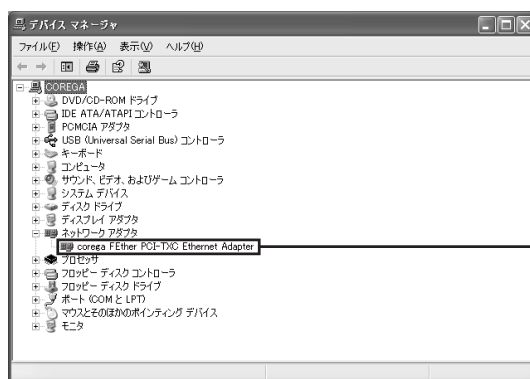
● ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブを表示して「デバイスマネージャ」をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ

※ 実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

● TCP/IP プロトコルを確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」をクリックします。

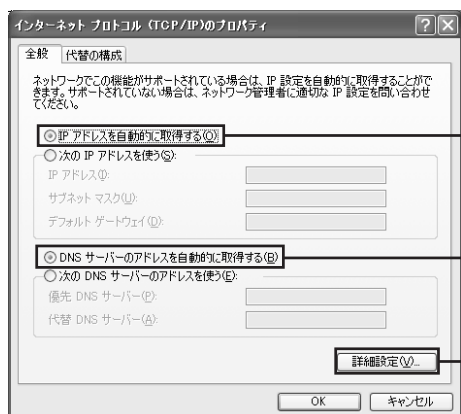
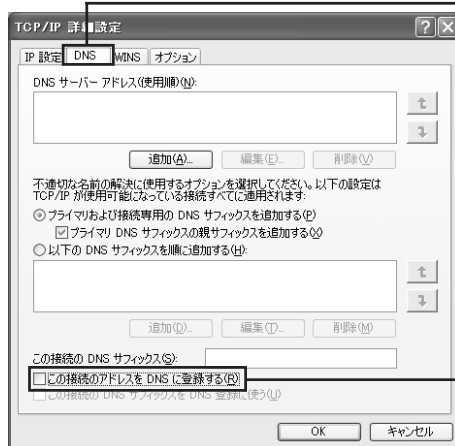
2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 「全般」タブにある「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

●プロバイダーからドメイン名も指定されている場合

「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

※ DNS 設定例

9 ［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で、［閉じる］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

13 次に「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.19）に進みます。

■ Windows 2000 で利用するときは

この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

● ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

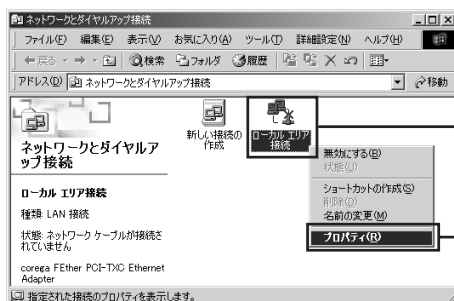
2　[ハードウェア] タブを選択し、[デバイスマネージャ] をクリックします。

3　一覧の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確かめます。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

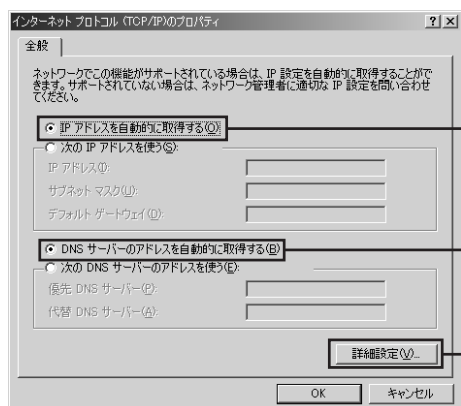
● TCP/IP プロトコルを確認する

1　[スタート] －「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

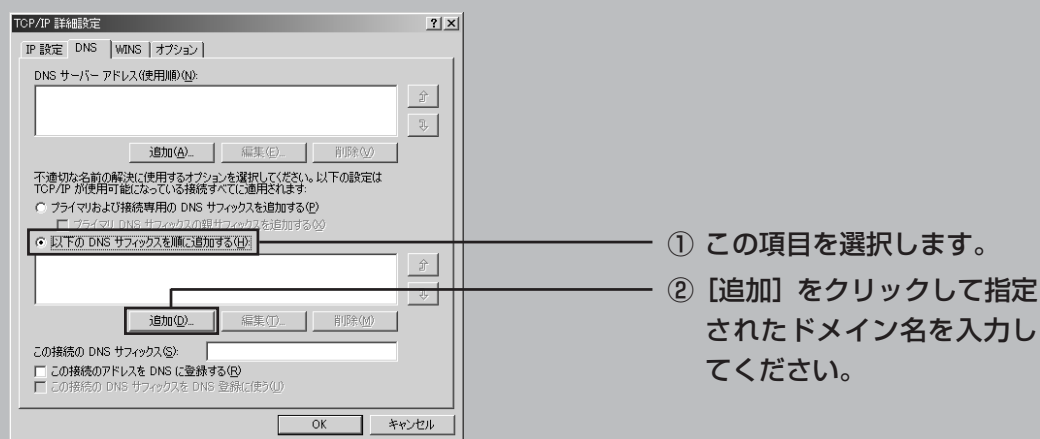
※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が一覧にない場合は、「TCP/IPをインストールする」(P.14)をご覧ください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

・プロバイダーからドメイン名も指定されている場合
「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、[追加] をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 [OK] をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で [OK] をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で [OK] をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

11 次に「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.19）に進みます。

● TCP/IP をインストールする

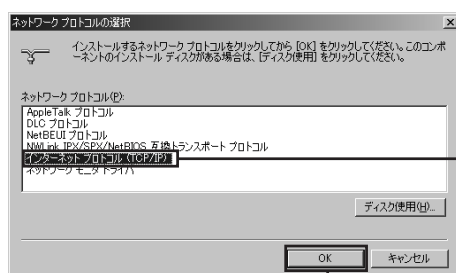
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 [スタート] ―「設定」―「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で [インストール] をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、[追加] をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、[OK] をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４ (P.12～) からの設定を行ってください。

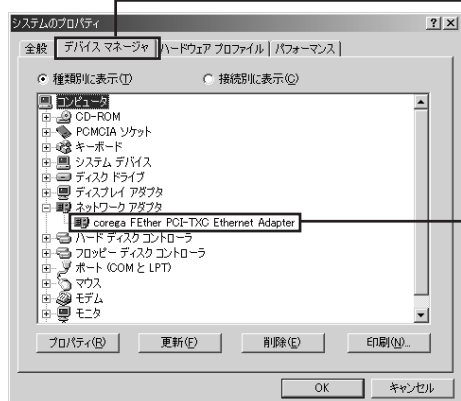
■Windows Me/98/95で利用するときは

● ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本製品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

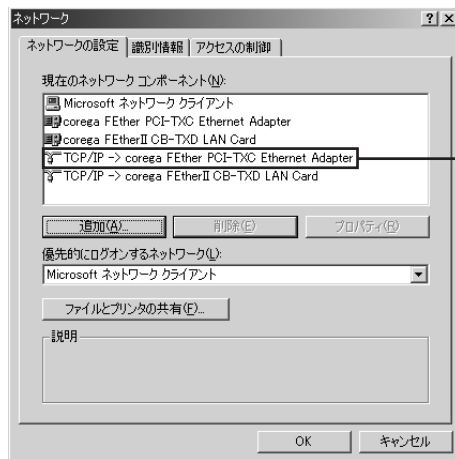
● TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98/95をご使用の場合も手順は同様です。

1　［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

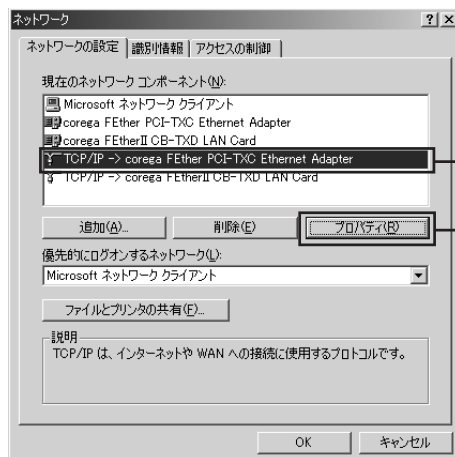
Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

2　「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3　「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP　－>　XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

※画面は例です。

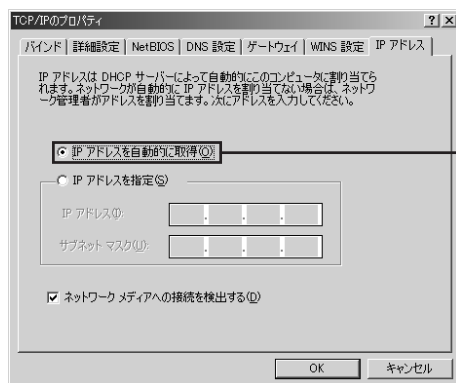
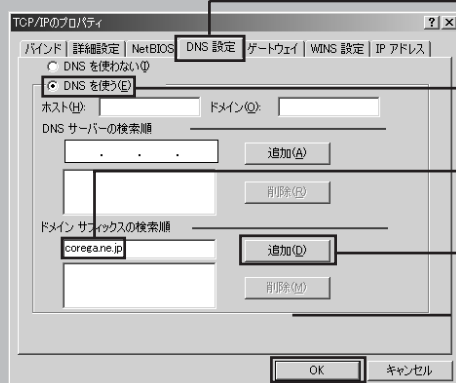
・「TCP/IP －>」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

「TCP/IP －> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.18）をご覧ください。

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP －> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

① ご使用のネットワークアダプタ名が表示されているものを選択します。

② ［プロパティ］をクリックします。

「TCP/IP －>XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタの方を選択します。

5　「IP アドレス」タブで「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

・プロバイダーからドメイン名も指定されている場合
「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

※ DNS 設定例

6　［OK］をクリックします。

7　「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

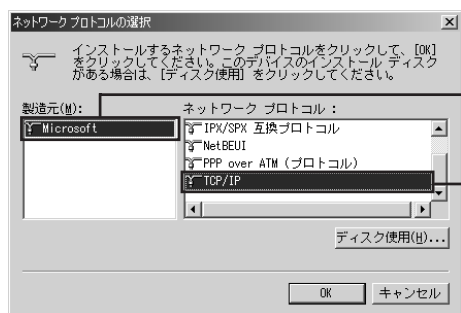
8　次に「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.19）に進みます。

● TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ネットワーク」の画面で、[追加] をクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、[追加] をクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択します。

4 「OK」をクリックします。

5 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP ―>XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確かめます。

6 [OK] をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.16～）からの設定を行ってください。

Web ブラウザーの設定をしよう

本製品を利用できるように、Web ブラウザーの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他の Web ブラウザーの場合は、Web ブラウザーのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3　「LAN の設定」をクリックします。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で「設定を自動的に検出する」「自動構成スクリプトを使用する」「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　[OK] をクリックします。

6　「インターネットオプション」画面で [OK] をクリックします。

7　次に「パソコンと本製品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

パソコンと本製品を接続しよう

■本製品を設置する場所について

・本製品に同梱されている「お使いの手引き」をお読みになり、使用時の注意等についてご確認ください。
・本製品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本製品を安定させて設置する場所が見つからない場合は､付属の縦置きスタンドを本製品に取り付けることで、本製品を立てて設置できます。取り付け方法は、本製品に同梱されている「お使いの手引き」をご覧ください。

●設置に適した場所
・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所
・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取り方

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプターを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプターやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れ方／切り方

本製品背面のDCジャックにACアダプターのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプターの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・本製品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

・ACアダプターの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

■パソコン、モデムと本製品を接続する

本製品とモデム、パソコンなどネットワーク接続する機器はLANケーブルで接続してください。

●推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、カテゴリー5のLANケーブル（ストレートタイプ）を使用してください。

1 本製品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本製品背面のLANポートにLANケーブルを接続します。（❶）

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します。（❷）

4 本製品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します。（❸）

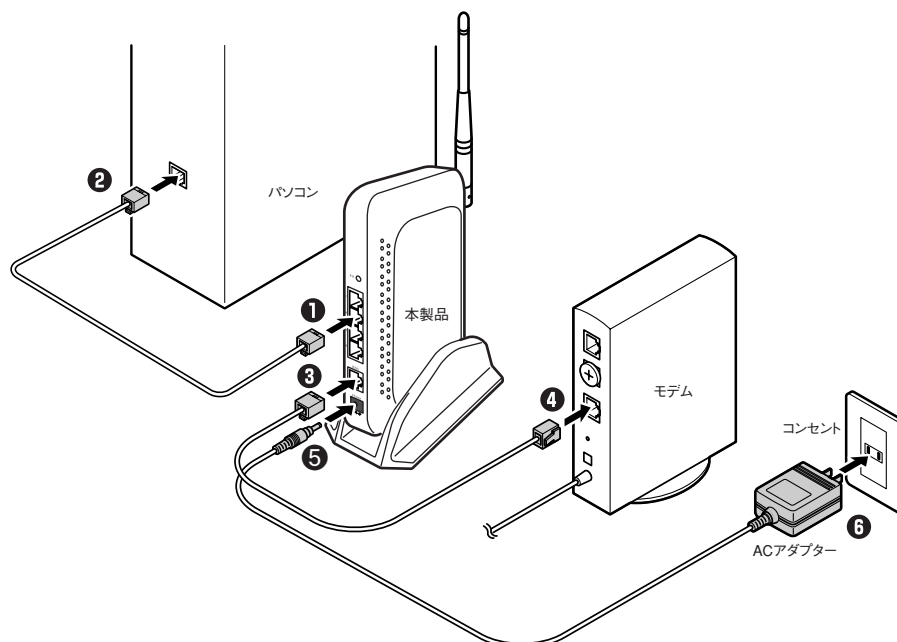
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します。（❹）

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本製品背面のDCジャックに専用ACアダプターを接続します。（❺）

8 本製品の専用ACアダプターをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。（❻）本製品前面のPower、WAN側の100M、Link/Actの各LEDが点滅していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本製品前面の、ケーブルを接続したLAN側のポートのLink/Act LEDが点灯していることを確認します。

本製品の設定をしよう

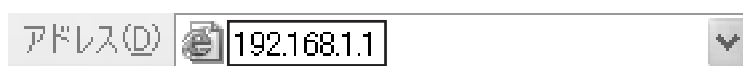
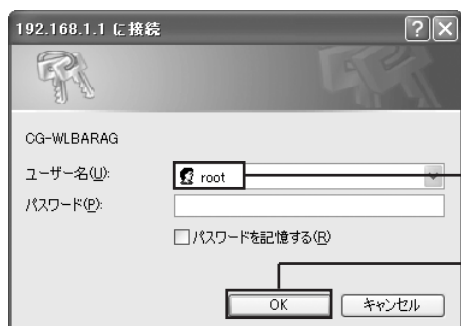
パソコンから本製品を使ってインターネットに接続できるように本製品の設定を行います。本製品の設定はWebブラウザーで行います。本製品に接続されているパソコンのうち、1台から設定作業を行ってください。Webブラウザーには Internet Explorer 5.5 以降をご利用ください。これ以外のWebブラウザーでは、正常にセットアップが行えない場合があります。
推奨ブラウザーについては、P.6の「チェック4」をご覧ください。

■簡単な接続方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダーによって異なります。P.6の「チェック3」でメモした情報を準備してください。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアーウォールソフトなどのセキュリティーソフトが起動していると、本製品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティーソフトを停止させて本製品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティーソフトの停止、起動の方法は、セキュリティーソフトの取扱説明書をご覧ください。

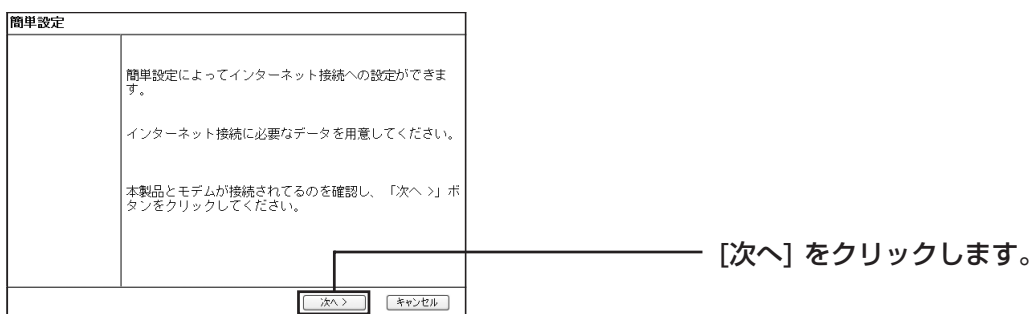
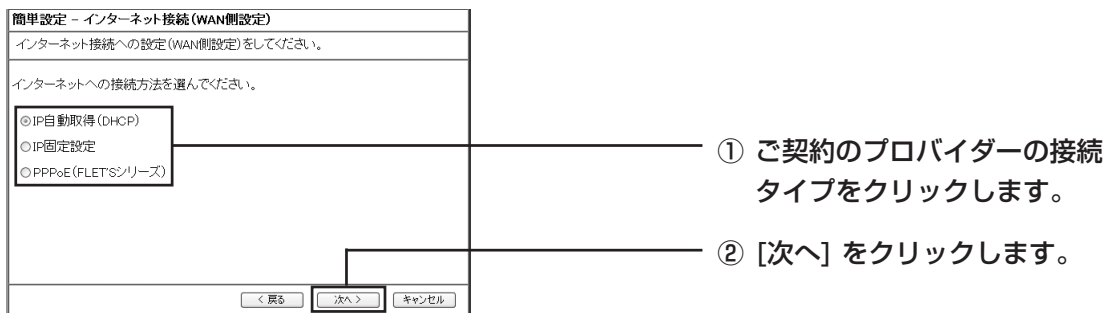
1　本製品に接続したパソコンで、Internet Explorerを起動します。

2　Webブラウザーのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名の欄に「root」と入力し、[OK]をクリックします。

※上の画面はWindows XPのものです。
※他のOSも同じ手順で行ってください。

- 工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ユーザー名、パスワードは変更できます。詳しくは「本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい」（P.79）をご覧ください。

4　設定ユーティリティーが起動します。

5　設定ユーティリティーの左側にある [簡単設定] をクリックします。

6　「簡単設定」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

7　「簡単設定ーインターネット接続（WAN 側設定）」が表示されたら、ご契約のプロバイダーの接続タイプを選択し [次へ] をクリックします。

次ページを参考に、該当する接続方法を選択してください。

〈IP 自動取得（DHCP）ー Yahoo! BB、CATV など〉

プロバイダーや接続先のネットワーク（ルーター）から IP アドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

〈IP 固定設定－固定 IP サービスなど〉

プロバイダーや接続先のネットワーク（ルーター）から固定 IP アドレスを取得している場合に選択します。

〈PPPoE（FLET'S シリーズ）－フレッツ・ADSL、B フレッツなど〉

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダーよりユーザー名とパスワードが割り当てられます。本製品ではプロバイダーの情報を設定ユーティリティーに登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8　接続タイプに応じて「簡単設定」の各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明を参考に、設定を行ってください。

〈「IP 自動取得（DHCP）」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。次ページの手順 9 に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダーから指定された IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダーから指定されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。
④ DNS サーバー	12.34.56.98	ローカルに DNS サーバーを設置する場合、またはプロバイダーから DNS サーバーの IP アドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。

〈「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

❶　接続ユーザー名、接続パスワードを入力、[次へ]ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定された接続ユーザー名※を入力します。
②接続パスワード	Password02	プロバイダーより指定された接続パスワード※を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 25 文字までです。 ※「 " 」および「 " 」以降に入力した文字は、保存されません。

※ プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります。

❷ フレッツ・スクエアのご利用地域を選択します。

フレッツ・スクウェアを利用しない場合でもどちらか選択してください。手順11の接続テストのときセッション2にエラーが表示されますが、動作に問題はありません。

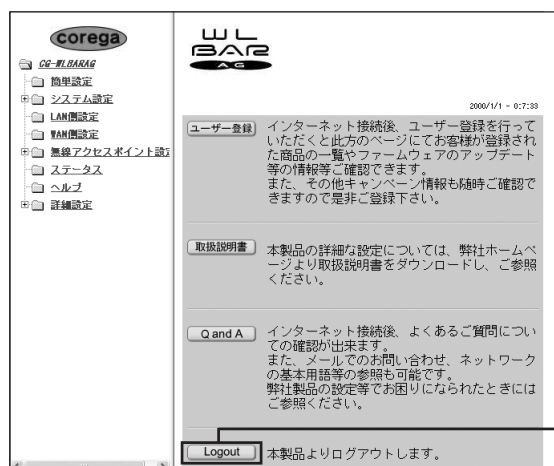
9　次の画面が表示されたら、［保存］をクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。

［OK］をクリックします。

11 しばらくすると、テスト結果が表示されるので確認して［終了］をクリックします。
パソコン、モデムと本製品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました。」と表示されます。

上画面のように表示されなかった場合は、このページの操作9に戻り、再度テストを行ってください。それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧になり対処してください。

12 操作５の画面に戻ったら［Logout］をクリックして設定ユーティリティーを終了します。

「このウインドウを閉じますか?」と表示されるので、［はい］を押して終了してください。

- その他の設定項目については、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」（P.28）をご覧ください。本製品のより高度な使用方法については、「PART4 こんなときにはこの設定」（P.59）をご覧ください。
- PPPoE セッションを同時に２つ使用する（マルチ PPPoE）場合には、「マルチ PPPoE で２つの接続先を使い分けるには」（P.63）をご覧ください。

●テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度、ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示されたときは、WANポートのLANケーブルが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・ユーザー名かパスワードの入力を間違えている
プロバイダーからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線とが正しく接続されていない
モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと設定ユーティリティーの設定が終わったら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2　Webブラウザーのアドレス入力欄に当社のホームページアドレス「http://www.corega.co.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダーによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。

もし、インターネットにつながらなかった場合は、「PART5 トラブルや疑問があったら」(P.73)をご覧ください。

■他のパソコンを接続する場合

本製品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.8)、「Webブラウザーの設定をしよう」(P.19)、「パソコン、モデムと本製品を接続する」(P.21)をご覧になり、同じ手順でパソコンの設定を行い、本製品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

設定ユーティリティーを見てみよう

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」「設定ユーティリティーの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定ユーティリティーの全体構成について

各項目の設定を変更した際は、必ず「システム設定」画面の「システム・リブート」の［実行］ボタンをクリックし、本製品を再起動させてください。「システム・リブート」を実行しないと、設定変更内容が本製品に反映されないことがあります。

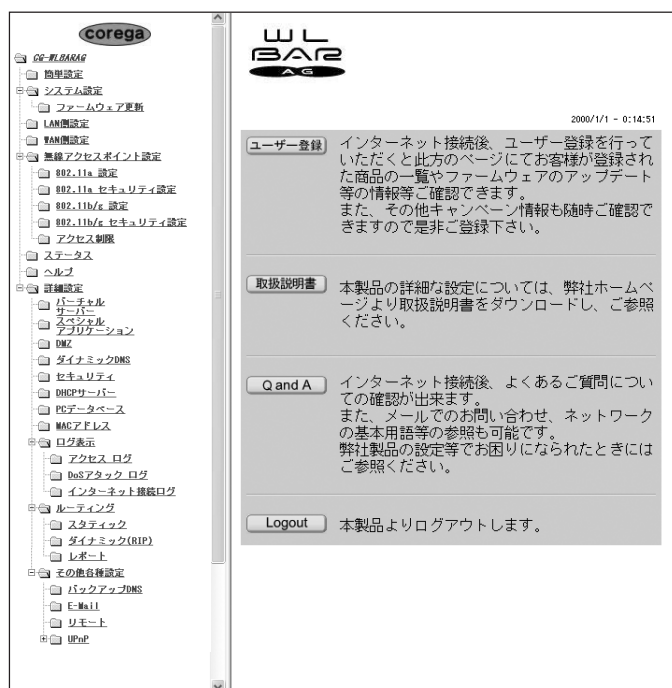
設定画面の各機能

・以下の説明では、画面例を掲載しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。

・各設定画面にある［ヘルプ］をクリックすると、説明が表示されます。

・設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］ボタンをクリックして、設定内容を保存してください。

■CG-WLBARAG(トップページ)

設定ユーティリティー起動時の画面です。ユーティリティーの全体図を表示している（画面左側）他、インターネットに接続後は「ユーザー登録」、「取扱説明書」、「Q&A」を表示させることができます。（画面右側）
終了時には「Logout」をクリックすると、画面を閉じることができます。

■簡単設定

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」（P.22）をご覧ください。

■システム設定

本製品のシステムを変更するときに設定します。変更した後は「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①管理者ログイン名	本製品の管理者用のログイン名を変更します。設定以降はこのログイン名でユーティリティー設定を行います。 ※工場出荷時は「root」
②管理者ログイン・パスワード	本製品の管理者用のパスワードを設定します。空欄にした場合、設定変更するときにパスワードは入力不要です。 ※工場出荷時は設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IPマスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバー等への長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続等では設定する必要はありません。
⑤ URL ホーム	設定したURLをブラウザー画面で入力すると、本製品の設定ユーティリティーのトップページを表示させせることができます。 ・アドレスには「.」(ドット)を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。 ・「.」(ドット)はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※工場出荷時は「corega.home」
⑥ダイレクト PPPoE＊	有効にすると、本製品の PPPoE を使用せずに、パソコン(本製品に接続され、インターネットに接続できるパソコン) の ＰＰＰｏＥ 接続ツールを使用して直接PPPoE接続します。無効にすると、常に本製品のPPPoE接続機能を使用します。
⑦ルーター機能	「無効」に設定すると本製品をアクセスポイントとして使用することができます。
⑧無線アクセスポイント機能	本製品の無線アクセスポイントの使用を設定します。「無線アクセス無効」に設定した場合、無線を使用することができなくなります。また、「11a有効」にした場合は802.11a機器のみ、「11g 有効」にした場合は 802.11b/g のみが本製品と通信できます。
⑨時間設定	・自動設定にすると、上位のサーバーを通して自動的に時刻を検出して設定します。 ・手動設定にすると、「(西暦)年 / 月 / 日」と「時 / 分 / 秒」の設定ができます。設定した時刻は、本製品の電源を切るとリセットされます。
⑩工場出荷時の状態へ戻す	本製品で設定した項目をすべて工場出荷時の状態に戻します。(P.84) ※今までの設定は消えますので、実行する前に設定した内容は控えておくことをおすすめします。
⑪システム・リブート	本製品の設定を変更した後に実行します。本製品が再起動され、設定した内容に変更されて動作します。(P.83)
⑫設定保存	本製品で設定した項目をパソコンにファイル形式で保存します。設定のバックアップ等にご使用ください。(P.81)
⑬設定読込	⑫で保存した設定情報を読み込みます。(P.81)
⑭ファームウェア更新	本製品のファームウェアを更新します。(次ページ)

＊ PPPoE
ブロードバンドネットワーク上で、LAN 上の PPP によるダイヤルアップ機能を擬似的に実現させるソフトウェアのことです。

・ファームウェア更新

弊社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードしてパソコン内に保存することができます。詳しくは、「最新のファームウェアをアップデートしたい」(P.79)をご覧ください。

項目名	内　　容
①［参照］ボタン	ファームウェアのファイルを選択するときにクリックします。
②［更新］ボタン	本体のファームウェアの更新を開始します。
③［取消］ボタン	本体のファームウェアの更新を中断します。

・更新中は絶対に本製品の電源を切らないでください。

・更新中にブラウザの操作をすると、ファームの更新を中断します。

■LAN 側設定

LAN 側の IP アドレス、サブネットマスクを設定します。LAN 側の IP アドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	内　　容
① MAC アドレス	本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②LAN側IPアドレス*1	本製品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク*2	本製品のLANインターフェイス*3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。

＊ 1 : IP アドレス
　インターネット上の住所。

＊ 2 : サブネットマスク
　IP アドレスの先頭部分となり、IP アドレスのネットワーク・アドレス部を増やす方法。ビット数で表します。

＊ 3 : インターフェース
　2 つのものの間で情報のやりとりを仲介するもの。

■WAN 側設定

WAN 側の IP 自動取得(DHCP)/IP 固定、PPPoE、ローカル・オフィスの設定を行います。
設定変更をしたい項目をクリックしてください。変更した後は「システム・リブート」を実行します。

Yahoo! BB、CATV など	IP 自動取得(DHCP)/IP 固定 (下記参照)
フレッツ ADSL、B フレッツなど	PPPoE (次ページ参照)
社内 LAN など	ローカル・オフィス 〈「社内 LAN として使用するには」(P.68)参照〉

● IP 自動取得(DHCP)/IP 固定…Yahoo! BB、CATV など

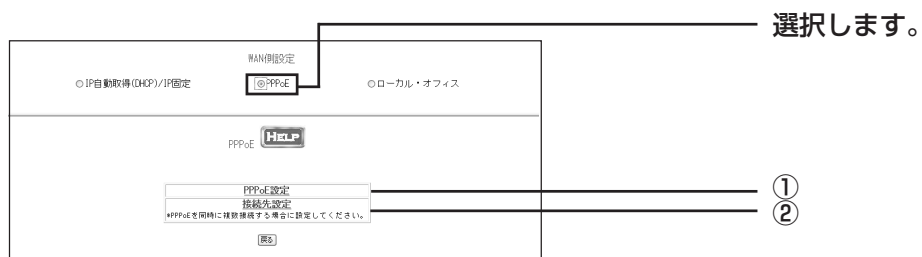
IP アドレスの自動割り当てまたは、固定 IP を割り当てているプロバイダーのみでご使用になれます。

項目名	内　　容
① MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②タイプ /IP 自動取得(DHCP)	特に情報 IP アドレス等を指定されていないときは、自動取得にします。 プロバイダー(ISP)から自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS アドレス等、インターネットに必要な情報を取得します。
③タイプ /IP 固定	インターネット接続に必要な情報を指定されたとき、手動で設定します。 **※ IP 固定にした場合のみ表示** **・WAN 側 IP アドレス** プロバイダー(ISP)から割り当てられた IP アドレスを入力します。 **・サブネットマスク** プロバイダーから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 **・デフォルトゲートウェイ** プロバイダーから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
④ドメイン名	プロバイダーから指定された場合ドメイン名を入力します。(②を選択したときのみ)
⑤コンピュータ名	プロバイダーから指定された場合コンピュータ名を入力します。(②を選択したときのみ)
⑥ MTU 値＊1	ユーザーが 576 から 1500 までの範囲で割り当てることができます。能力の高い接続環境であるほど高い数値を入れると速い速度で送信できます。接続環境に合わせて変更してください。
⑦ DNS サーバー＊2	**自動設定** DNS サーバーの IP アドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。 **マニュアル設定** プロバイダーよりDNSサーバーのIPアドレスが指定されている場合に選択し、IP アドレスを「DNS サーバー 1」「DNS サーバー 2」に入力します。

＊ 1：MTU 値
1 回の転送で送信できる最大値のこと。接続環境によって適正値があり、どの環境でも「数値大＝速い」ということではない。Ethernet は 1500、電話回線(ダイヤルアップ回線)は 576 が適正と言われている。

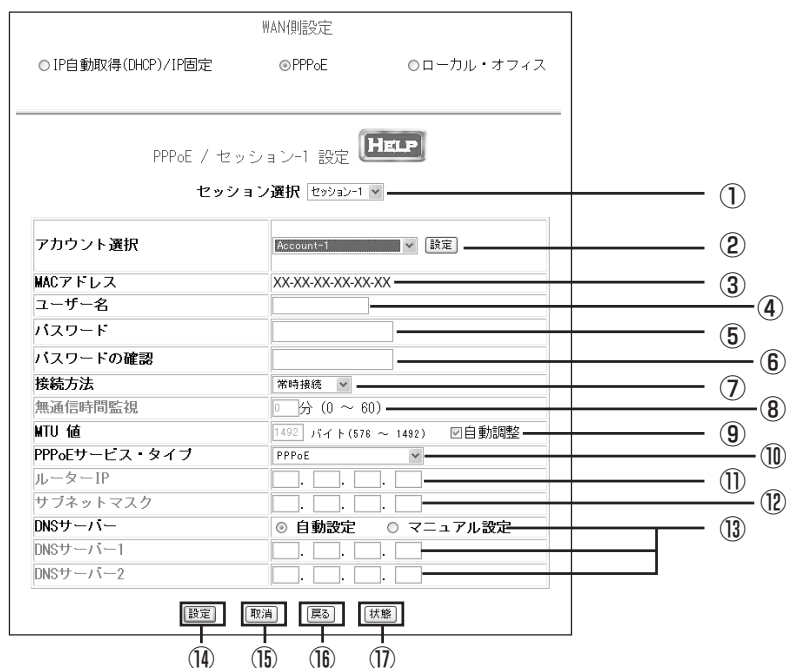
＊ 2：DNS サーバー
インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたるIPアドレス(4つの数字の列)に変換するコンピューター。

● PPPoE…フレッツ ADSL、B フレッツなど

PPPoE アカウント(インターネットに接続する際に必要な ID)の設定をします。

項目名	内　　容
① PPPoE 設定	接続アカウントの情報を設定します。
②接続先設定	接続アカウントを使用する条件を設定します。(P.36) 例：フレッツ・コネクトを利用する場合(P.65)

・PPPoE 設定

PPPoEを使用するときに設定します。設定前にプロバイダーより指定された「ユーザー名」(接続ユーザー名)「パスワード」(接続パスワード) 等をご確認ください。

〈セッション 1〉

項目名	内　　容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 1」を選択します。
②アカウント選択	・5 つのアカウントを登録できます。(「セッション 1」で使用したアカウントは「セッション 2」では使用できません。) ・アカウントを選択して、④～⑬までの設定を変更し、選択しているアカウントに保存できます。［設定］右側のボタンをクリックすると名称を変更できます。
③ MAC アドレス	本製品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。
④ユーザー名	プロバイダー(ISP)より指定されたアカウントのログイン名を入力します。
⑤パスワード	プロバイダーより指定されたアカウントのパスワードを入力します。
⑥パスワードの確認	確認のため、再度⑤で入力したパスワードを入力します。

項目名	内　　容
⑦接続方法	**常時接続** 　常にインターネットへ接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 **トリガー接続** 　インターネットへの接続が発生したときに、自動的にPPPoE接続を行います。 **手動接続** 　手動で接続しない限りインターネット接続を行いません。接続するときは「WAN側設定」－「PPPoE」－「状態」（⑰）－「接続」の順にクリックして、接続してください。
⑧無通信時間監視	プロバイダーのアクセス･ポイントへの接続後、通信を行わなくなってから自動切断までの時間(分)を入力します(トリガー接続、手動接続のときのみ)。
⑨MTU値 …P.32参照	チェックボックスを「有効」にすると、MTU値が自動的に調整されます。 チェックボックスを「無効」にすると、ユーザーが576バイトから1492バイトの範囲で設定できます。
⑩PPPoEサービス･タイプ	ご使用するPPPoEのサービスタイプを選択してください。 **PPPoE(セッション2設定可)** 　通常のマルチPPPoE接続で通信をします。 **Unnumbered IP(セッション2設定不可)** 　複数のグローバルIP＊1を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルーターIPとサブネットマスクは、本製品のIPアドレスとして同じアドレスがWAN側/LAN側に設定されます。 ・グローバルIPをLAN側(パソコン側)で使用するときはLAN側でグローバルIPを固定で設定してください。 **Unnumbered IP+Private IP(セッション2設定不可)** 　複数のグローバルIPとプライベートIP＊2を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルーターIPを設定することで本製品のグローバルIPを使ってIPマスカレード＊3機能を使用することができます。 ・グローバルIPをLAN側で使用する場合は、パソコン側でグローバルIPを固定で設定してください。
⑪ルーターIP	プロバイダー(ISP)から割り当てられたIPアドレスを入力してください。 （⑩でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）
⑫サブネットマスク	プロバイダーから割り当てられたサブネットマスクを入力してください。 （⑩でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）
⑬DNSサーバー	プロバイダーから指定されたDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 **自動設定** 　DNSサーバーのIPアドレスが自動割り当ての場合選択します。 　※サーバーの値は自動的に設定されます。 **マニュアル設定** 　プロバイダーからDNSサーバーのIPアドレスを指定されている場合選択し、IPアドレスを入力します。
⑭［設定］	設定変更をした際、保存するときにクリックします。
⑮［取消］	設定変更を取消したいとき、［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態までキャンセルすることができます。
⑯［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。
⑰［状態］	本製品の現在の状態を表示します。⑦の「接続方法」を「手動接続」にしているときは、［状態］ボタンをクリックして開き、［接続］ボタンをクリックします。

＊1：グローバルIP
　インターネットで使用されるIPアドレス。グローバルIPアドレス。

＊2：プライベートIP
　イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレス。プライベートIPアドレス。

＊3：IPマスカレード
　グローバルIPを企業等で1つ持ち、複数のパソコンで共有する機能。企業内で持つプライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現する。

〈セッション２〉

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション２」を選択します。
② LAN TYPE	フレッツ・グループアクセス(NTT 東日本)/ フレッツグループ(NTT 西日本)LAN 型払い出しサービスをセッション２で使用する場合、「有効」を選択します。「有効」を選択して「LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを変更してください」と表示された場合は、設定するパソコンの固定 IP アドレスを変更します。

※セッション２はセッション１の「PPPoE サービス・タイプ」が「LAN TYPE」に替わります。
※その他の項目はセッション１と同じ設定内容です。

・**接続先設定**

PPPoE 設定画面で登録した「セッション 2」経由で接続するネットワークの設定を行います。(例:B フレッツ等)

「追加」ボタンをクリックします。

下図画面が表示されるので、各項目を設定してください。

項目名	内　　容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名*	接続先のドメイン名を入力します。 例: www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス*	接続先の IP アドレスを入力します。 例: http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1 と 192.168.10.2 →「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク*	接続先の IP アドレスを入力します。 例: http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1 と 192.168.10.2 →「192.168.10.1-2」
⑥開始、終了ポート*	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例: http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦ NetBios	フレッツ・グループアクセス(東日本)/フレッツ・グループ(西日本)のLAN型払い出し（P.64）に接続する場合は、ここにチェックを入れます。
⑧プロトコル*	使用するプロトコルを選択します。

＊「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

●ローカル・オフィス…社内LANなど

オフィス内でローカル・ルーターとして使用する場合に設定します。

例:社内LANとして使用する

「PART4 こんなときにはこの設定」「社内LANとして使用するには」(P.68)

項目名	内　　容
① MACアドレス	本製品のインターネット側(WAN側)のMACアドレスが表示されます。
②WAN側IPアドレス	WAN側に値するルーターのIPアドレスを入力します。
③サブネットマスク	WAN側に値するサブネットマスクを入力します。
④デフォルト・ゲートウェイ	WAN側の先のゲートウェイ・アドレスを入力します。
⑤DNSサーバー1、2	プロバイダー(ISP)により指定されたDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

ローカル・オフィスでご使用になる場合は、「詳細設定」ー「セキュリティ」画面を表示させ、「ステートフルインスペクション」を必ず「無効」にしてください。

■無線アクセスポイント設定

本製品に接続できる無線 LAN 規格を IEEE802.11a または IEEE802.11b/g のどちらかに選択し、さらにチャンネルやセキュリティーなどの詳細な設定を行います。

● 802.11a 設定

IEEE802.11a を選択した場合の通信の設定を行います。

項目名	内　　容
① ESSID	無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。 接続する全てのパソコン（無線 LAN アダプター）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時は「corega」に設定されています。
②チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）の中から選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
③転送レート	パソコン（無線LANアダプター）と本製品が通信するときの本製品の転送速度を変更することができます。 ※工場出荷時は「自動」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
④ Super モード	「有効」に設定すると「Super a/g」モードを搭載した無線機器と通信した時、バースト転送およびデータ圧縮を行います。
⑤ステルス AP	「有効」に設定すると無線 LAN アダプターを持つパソコンから本製品の ESSID を検索されないようにできます。また ESSID を「ANY」や空白にしているパソコン（無線 LAN アダプター）からのアクセスを拒否することができます。
⑥ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発生している、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※「工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑦ RTS しきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に RTS（送信要求）パケットが送信されるしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットを送信する場合に RTS（送信要求）パケットが送られます。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑧パケット分割のしきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に分割するときのしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットが分割されます。 ※パケット長は、偶数で指定してください。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑨電波強度	本製品の電波出力の強度を設定します。

● 802.11a セキュリティ設定

IEEE802.11a のセキュリティーの設定を行います。

項目名	内　　容
①認証方式	WEPを使用したい時は「Shared Key」を、802.1xを使用したい時は「802.1X」を、WPA を使用したい時は「WPA-PSK」か「WPA-EAP」を選択します。WPA は一般的に個人でご使用になる場合は「WPA-PSK」を、企業でご使用になる場合は「WPA-EAP」を選択します。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
②暗号方式	本製品の暗号方式を設定します。 WEP：通信内容を暗号化することにより、通信の読解を防ぎます。 AES：米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIP より強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP：一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。
③暗号化	WEP の暗号強度を 64bit、128bit、152bit のいずれかから選択できます。
④キー文字列	ASCII文字を入力し、[コード生成]ボタンをクリックすると暗号キーが生成されます。③で選択した暗号強度によって入力字数が変わります。 64bit:5 文字、128bit:13 文字、152bit:16 文字 ※ 128bit と 152bit ではキー 1 のみ生成されます。
⑤ WEP キー	WEP キー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー（1 ～ 4）を選択します。
⑥共有キー	WPA-PSK を選択した場合は任意の暗号キーを入力します。
⑦更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で指定します。
⑧セキュリティ サーバー	802.1x、WPA-EAP を選択した場合は RADIUS サーバーの設定を行います。 設定内容に関してはネットワーク管理者などにご確認ください。

● 802.11b/g 設定

IEEE802.11b/g を選択した場合の通信の設定を行います。

項目名	内　　容
① ESSID	無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。 接続する全てのパソコン（無線 LAN アダプター）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時は「corega」に設定されています。
②モード	通信モードを自動、802.11b、または 802.11g から選択できます。 「自動」に設定すると 802.11b、802.11g の両方を使用することができます。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）の中から選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
④転送レート	パソコン（無線LANアダプター）と本製品が通信するときの本製品の転送速度を変更することができます。 ※工場出荷時は「自動」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑤ Super モード	「有効」に設定すると「Super a/g」モードを搭載した無線機器と通信した時、バースト転送およびデータ圧縮を行い、通信速度を向上させます。
⑥ステルス AP	「有効」に設定すると無線 LAN アダプターを持つパソコンから本製品の ESSID を検索されないようにできます。また ESSID を「ANY」や空白にしているパソコン（無線 LAN アダプター）からのアクセスを拒否することができます。
⑦ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発生している、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※「工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑧ RTS しきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に RTS（送信要求）パケットが送信されるしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットを送信する場合に RTS（送信要求）パケットが送られます。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑨パケット分割のしきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に分割するときのしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットが分割されます。 ※パケット長は、偶数で指定してください。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑩電波強度	本製品の電波出力の強度を設定します。

● 802.11b/g セキュリティ設定

IEEE802.11b/g のセキュリティーの設定を行います。

項目名	内　　容
①認証方式	WEPを使用したい時は「Shared Key」を、802.1xを使用したい時は「802.1X」を、WPA を使用したい時は「WPA-PSK」か「WPA-EAP」を選択します。WPA は一般的に個人でご使用になる場合は「WPA-PSK」を、企業でご使用になる場合は「WPA-EAP」を選択します。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
②暗号方式	本製品の暗号方式を設定します。 WEP：通信内容を暗号化することにより、通信の読解を防ぎます。 AES：米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIPより強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP：一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。
③暗号化	WEP の暗号強度を 64bit、128bit、152bit のいずれかから選択できます。
④キー文字列	ASCII文字を入力し、[コード生成]ボタンをクリックすると暗号キーが生成されます。③で選択した暗号強度によって入力字数が変わります。 64bit:5 文字、128bit:13 文字、152bit:16 文字 ※ 128bit と 152bit ではキー 1 のみ生成されます。
⑤ WEP キー	WEP キー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー（1 ～ 4）を選択します。
⑥共有キー	WPA-PSK を選択した場合は任意の暗号キーを入力します。
⑦更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で指定します。
⑧セキュリティ サーバー	802.1x、WPA-EAP を選択した場合は RADIUS サーバーの設定を行います。 設定内容に関してはネットワーク管理者などにご確認ください。

●アクセス制限

アクセス制限を使用する場合、接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

項目名	内　　容
①無線端末間通信	「有効」を選択するとワイヤレスクライアント同士の通信が可能になります。
②アクセス制限	「有効」を選択するとアクセス制限をすることができます。
③LANアクセス制限	無線LANですべてのクライアントのアクセスを許可するか、選択したクライアントだけに許可するかの設定をします。
④インターネットアクセス制限	インターネットですべてのクライアントのアクセスを許可するか、選択したクライアントだけに許可するかの設定をします。

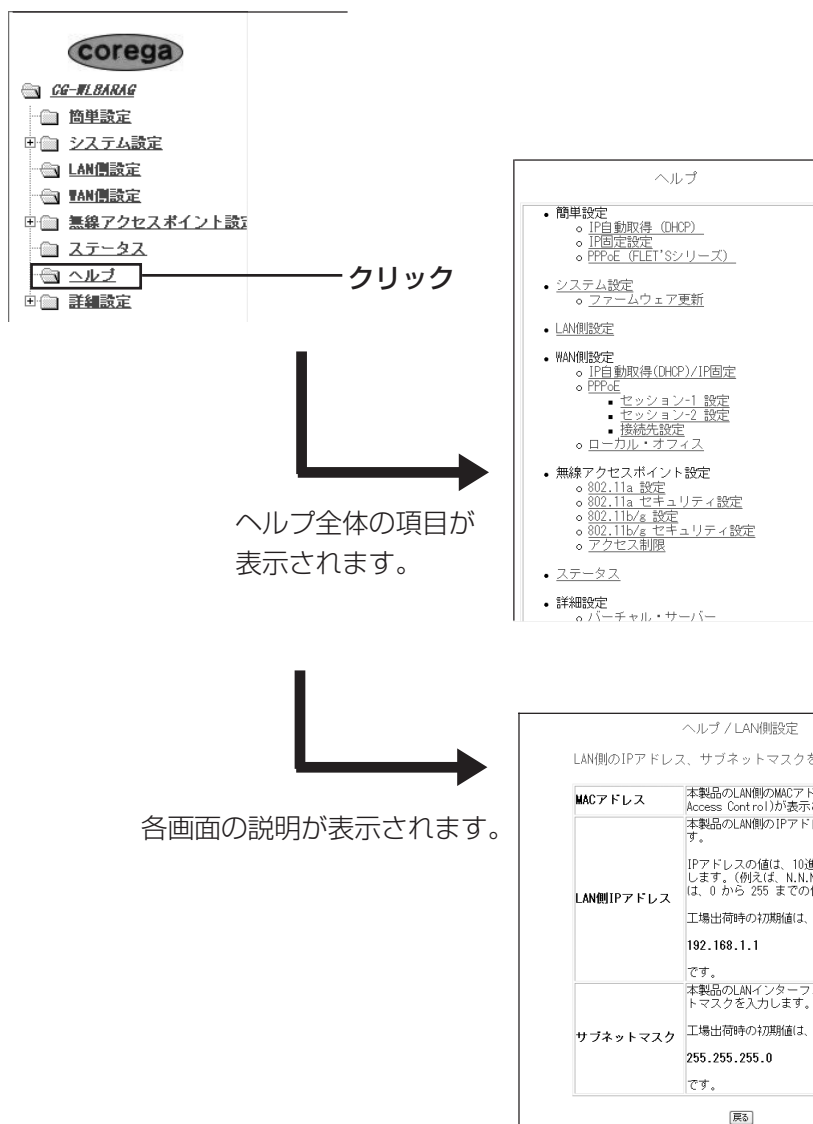
■ステータス

各種システム情報を表示します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①ファームウェア・バージョン	本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。
②システム稼動時間	システムを立ち上げてからの経過時間が表示されます。
③ LAN 状態	**MAC アドレス** 本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。 **IP アドレス** 本製品の LAN 側の IP アドレスが表示されます。 **サブネットマスク** 本製品の LAN 側のサブネットマスクが表示されます。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」です。 **DHCP** DHCP の状態(有効 / 無効)を表示します。 **DHCP 開始アドレス** LAN 上に分配する IP アドレスの開始アドレスが表示されます。 **DHCP 終了ドレス** LAN 上に分配する IP アドレスの終了アドレスが表示されます。
④ WAN 状態	**MAC アドレス** 本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 **IP アドレス** 本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。 **サブネットマスク** 本製品の WAN 側のサブネットマスクが表示されます。 **ゲートウェイ** 本製品の WAN 側のゲートウェイアドレスが表示されます。 **DNS サーバー** 本製品が取得(設定)された DNS アドレスが表示されます。 ※工場出荷時は「0.0.0.0」です。

■ヘルプ

本製品の各項目の説明をご覧になることができます。メニューリストの「ヘルプ」か、各画面にある「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

・メニューリスト(画面左)に表示されている「ヘルプ」をクリック

■詳細設定

●バーチャル・サーバー

インターネット(WAN側)から本製品のパソコン(LAN側)上にアクセスできるようにして、外部にサーバーを公開することができます。ホームページ等を公開するときに「有効」にして設定します。設定するときは［追加］ボタンをクリックして、表示された画面で設定を行ってください。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・パソコンの上では使用するサーバーソフトを実行している必要があります。
・ダイナミックDNS(DDNS)機能を使用することで、より簡単にインターネット上からLAN上のサーバーに接続することができます。

同じLAN内で同種類のサーバーを立ち上げたいときも、同じWAN側IPアドレスを使用します。接続先の指定はポート番号で行います。

項目名	内　　容
①バーチャル・サーバー	バーチャル・サーバーの有効／無効を選択します。選択を変えたときは［設定］ボタンをクリックします。「有効」にするとサーバーをインターネット上に公開することができます。
② UPnP 使用ポート情報	バーチャル・サーバーを使用するアカウントを選択します。「UPnP使用ポート」をクリックして［戻る］をクリックすると、UPnP 設定画面が表示されます。(P.58) ※ UPnP は Windows XP/Me でご使用になれます。
③PPPoE･アカウント選択	PPPoE アカウントごとのバーチャル・サーバーの有効／無効を選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。 ※(S1)は「セッション 1」を示しています。
④バーチャル・サーバー	バーチャル・サーバーの有効／無効を表示します。「有効」にするとサーバーをインターネット上に公開することができます。
⑤接続先	サーバーとなるパソコンを設定します。
⑥プロトコル	バーチャルサーバーで使用するプロトコルを設定します。 ・既に登録されているプロトコルをご使用になるときは、そのプロトコル名を選択してください。 ・追加登録したいプロトコルがある場合は「ユーザー定義」を選択して、⑦、⑧で登録したいプロトコルの使用ポート番号を入力します。
⑦入力開始／終了ポート	インターネット上からLAN上のサーバーに接続するための開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 **例:入力ポート番号を 50 ～ 100 に設定する場合→開始 =50、終了 =100** ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑧出力開始／終了ポート	サーバーソフトが使用する開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 **例:出力ポート番号を 150 ～ 200 に設定する場合→開始 =150、終了 =200** ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑨サービス・タイプ	バーチャルサーバーの対象となるIPタイプを指定します。特定のプロトコルを選択することにより TCP または UDP もしくは両方のポート番号を動作させます。
⑩備考	バーチャルサーバーの説明を入力します。

接続先でサーバーとあるパソコンが表示されない場合、PC データベースでサーバーとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」(P.53)をご覧ください。

●スペシャル・アプリケーション

ルーター等によって動作しない一部のインターネット使用アプリケーションを、スペシャル・アプリケーションに登録します。インターネットを使用するアプリケーションが動作しない場合、ここで設定してみてください。

その際、アプリケーションのメーカーから、設定に関する情報が必要になります。情報を確認しながら設定を行ってください。入力ポート番号、出力ポート番号はそれぞれパソコンからの入力、出力を意味しています。本設定を行ってもアプリケーションが動作しない場合は、DMZ 機能(次ページ)をお試しください。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①名称	スペシャル・アプリケーションに登録する任意の名称を入力します。(半角 12 文字、全角 6 文字まで)
②入力ポート番号	**タイプ** スペシャルアプリケーションを使用するときのプロトコル(TCPまたはUDP)を選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 **開始～終了(アプリケーションメーカーからの情報を確認する)** パソコンがデータを受信する際に、アプリケーションサーバーによって使用されるポート範囲の始まり(開始)～終わり(終了)の番号を入力します。アプリケーションが 1 つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 **例: 50 ～ 100 に設定するとき…開始 =50、終了 =100** **65 に設定するとき…開始 =65、終了 =65**
③出力ポート番号	**タイプ** スペシャルアプリケーションを使用するときのプロトコルを選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 **開始～終了(アプリケーションメーカーからの情報を確認する)** パソコンがデータを送信する際に、アプリケーション サーバーによって使用されるポート範囲の始まり(開始)～終わり(終了)の番号を入力します。アプリケーションが 1 つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 **例: 150 ～ 200 に設定するとき…開始 =150、終了 =200** **70 に設定するとき…開始 =70、終了 =70**

● DMZ

LAN 上のコンピューター(DMZ ホスト)に全ての入出力アクセスを可能とします。スペシャルアプリケーション機能を使用できなかったときなどに設定します。
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

※ PPPoE 設定の画面です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントを選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DMZ ホスト	インターネットを使用して全ての TCP/IP サービスを有効とする場合に設定します。 使用するパソコンを選択してください。 例:ネット・ゲーム、Real Player 等

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

DMZホストで使用するパソコンが表示されない場合、PCデータベースで使用するパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」(P.53)をご覧ください。

●ダイナミック DNS(DDNS)

インターネット側からIPアドレスではなくURL(ドメインネーム)を使用してLAN内のバーチャルサーバーなどに接続できます。本機能を使用することによって、ダイナミック IP アドレスのような IP アドレスが固定されないサービスに対応します。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・ダイナミック DNS の設定

1. DDNS サービスに登録手続きをします。
   登録はDynDNS.org(無料サービス)とIvyNetwork(有料サービス)の２つから選択できます。登録手続きをすると、後からユーザー登録確認メールが送信されてきます。
2. 登録した際に受け取った情報をもとに、ログイン名、ログインパスワード、ドメイン名を入力して保存します。
3. 本製品の再起動をします。「本製品を再起動する」(P.83)をご覧ください。
4. 本製品はその時点で使用している IP アドレスを自動的に設定したサービスに記録します。設定したダイナミック DNS を使用して、バーチャルサーバー等への接続が可能になります。

・PPPoE モードの選択時の設定項目

PPPoE モードを選択しているときは、アカウントごとに設定できる項目があります。

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントを選択します。 *PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②ダイナミックDNS	ご利用になる DNS サービスを選択します。
③ログイン名	DNS サービスに登録したログイン名を入力します。
④ログインパスワード	DNS サービスに登録したパスワードを入力します。
⑤ドメイン名	DNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑥ IP チェック時間	取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を指定時間で確認します。

●セキュリティ

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

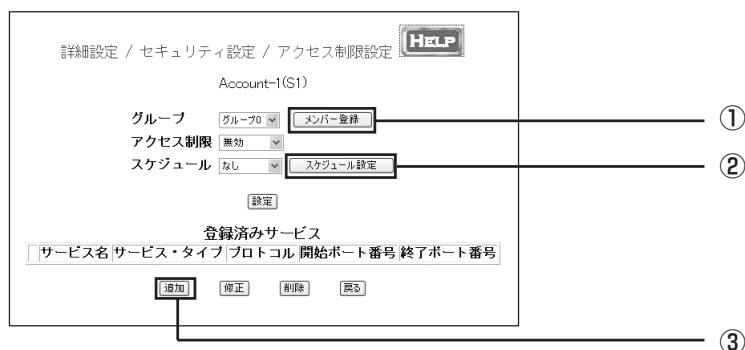
※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　容
① PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントを選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②ステートフルインスペクション	ステートフルインスペクションの有効 / 無効を選択します。 「有効」にするとファイアーウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して動的にポートを解放・閉鎖し、必要なデータのみ受け入れます。 ※ローカル・オフィスモードで使用するときは、必ず「無効」にしてください。
③ VPN パススルー	VPN(仮想的な専用回線) パススルーの有効 / 無効を選択します。 VPN のパススルーをしたい時に「有効」にします。
④ステルス モード	ステルス モードの有効 / 無効を選択します。 「無効」にすると、インターネット側(WAN 側)から Ping リクエスト（通信確認リクエスト）があった際に返答します。Ping 返答することによって、インターネット側から本製品の存在を確認できます。相手によってはお互いの存在を確認してからネット接続を始めるものもありますので、その際に「無効」にします。 「有効」にすると応答しません。
⑤ URL フィルター（→下記）	URLフィルターの有効/無効を選択します。有効にすると、指定した文字列がURLに含まれたページの閲覧を制限することができます。
⑥アクセス制限（→次ページ）	アクセス制限の有効/無効を選択します。有効にすると、インターネット接続ができるパソコンや時間を制御することができます。

・URL フィルター

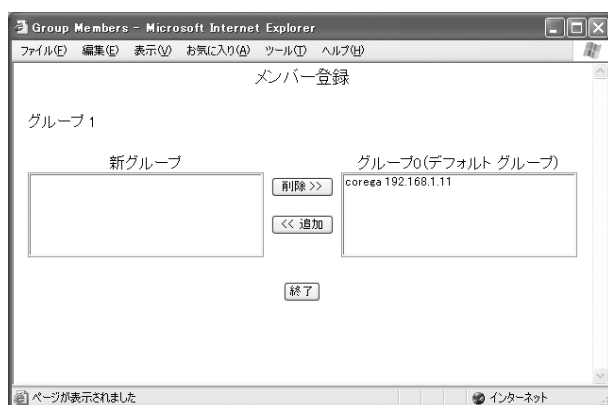
※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　容
① URL の追加	接続制限したい URL を入力し、「追加」ボタンをクリックすると、フィルターリストに URL が追加されます。 文字列(例:violence)を入力すると、その文字列を含む URL がブロックされます。
②フィルターリスト	現在制限されている URL または文字列が表示されます。1 件を削除するときは、削除したい URL または文字列を選択して「削除」ボタンをクリックします。 全て削除するときは「全て削除」ボタンをクリックします。

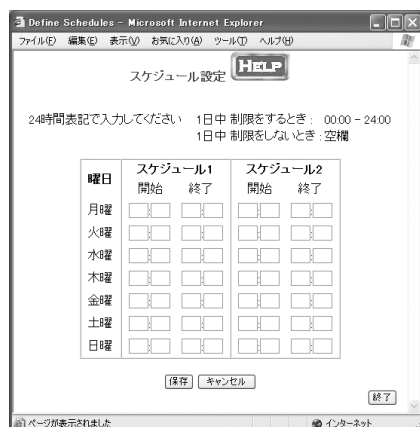
・アクセス制限

①メンバー登録

［メンバー登録］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

新しくグループを作成したいときは、画面右側＜グループ０（デフォルトグループ）＞から画面左側（新グループ）に加えたいパソコン（IP）を選択し、［追加］ボタンをクリックして入力します。

削除したいときは、削除するグループ名を選択して［削除］ボタンをクリックします。

②スケジュール設定

［スケジュール設定］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

・アクセス制限のスケジュール管理として使用します。
・開始時間から終了時間の間、アクセスを制御することができます。
・１日を２回にわけてスケジュールを組むことができます。
・時間設定は 24 時間表記で入力してください。
　※時間が設定されていないときは、スケジュールでの管理は動作しません。
・設定が終わったら[保存]をクリックして保存します。

曜日	曜日ごとにスケジュールを設定します。
スケジュール１、２	スケジュール２を使用しない場合は、空白で設定してください。
開始	24時間表記で開始時間を入力してください。
終了	24時間表記で開始時間を入力してください。

③追加

［追加］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
①サービス名	追加登録するとき、任意のサービス名を入力します。
②サービス・タイプ	追加登録するサービスタイプ(TCP/UDP/両方/ICMP)を選択します。
③プロトコル	既に登録されているプロトコルをご使用になるときは、そのプロトコル名を選択してください。 追加登録したいプロトコルがある場合は「ユーザー定義」を選択して、④で登録したいプロトコルの使用ポート番号を入力します。
④開始ポート / 終了ポート	③で「ユーザー定義」を選択している場合は、任意のポート番号を入力します。 ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。

● DHCP サーバー

変更したいときに各項目の設定を行います。
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
① DHCP サーバー	DHCP 機能の有効/無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンに IP アドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCP サーバーでリースされる IP アドレスのリース期限継続方法を選択します。 期限指定 / 無期限 の指定ができます。
③リース期限	DHCP サーバーでリースされる IP アドレスのリース期限を指定します。 ※②を期限指定にしている場合に設定できます。
④DHCP開始アドレス	DHCP サーバーでリース開始の IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.11」で設定されています。
⑤DHCP終了アドレス	DHCP サーバーでリース終了の IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.254」で設定されています。

● PC データベース

本製品に接続するクライアントパソコンの IP アドレスを設定することができます。
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①パソコン名	クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択してください。 **自動取得(DHCP クライアント)** パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定してあるとき、本製品はこのパソコンにIPアドレスを提供します。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合やネットワークから長時間パソコンから取り外された状態で再接続した際に変わることがあります。 **固定取得(DHCP クライアント)** パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定してあるとき、毎回決まったIPアドレスを取得したいときに選択します。最後の空欄に 0 ～ 254 までの任意の数字を入力してください。 **固定設定(DHCP 範囲以外)** パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合は、これを選択してください。
③ MAC アドレス	適切なオプションを選択してください。 **自動検索** 本製品がパソコンと通信し、そのパソコンのMACアドレスを自動取得するようにします。パソコンが LAN に接続されている状態でお使いください。 **MAC アドレスは** 直接パソコンのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは「ハードウェアアドレス」「物理アドレス」または「ネットワークアダプターアドレス」と呼ばれることがあります。本製品は各パソコンを個別に認識するためにこれを使用します。そのため MAC アドレスは空白にしておくことができません。
④［PC データ追加］	パソコンデータを使用して本製品のリストに新しいパソコンを加えることができます。MAC アドレス「自動検索」が選択されている場合、パソコンに「Ping」を送り、その MAC アドレスを登録します。
⑤［データの削除］	画面上で入力した値をクリアすることができます。
⑥［戻る］	標準「PC データベース」(上の画面)に戻るときにクリックします。

● MAC アドレス

本製品の WAN 側の MAC アドレスを変更したいとき、または工場出荷時の MAC アドレスに戻したいときに設定します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①工場出荷時のMACアドレスを使用する	工場出荷時の MAC アドレスを使用します。
② MAC アドレスを変更する	MAC アドレスを任意の値に変更します。 **例: LAN アダプターの MAC アドレスを通知する必要があるプロバイダーの場合、通知してある LAN アダプターの MAC アドレスを入力します。**

●ログ表示

・アクセス ログ

アクセス制限機能(P.42)を使用してブロックされた情報をログに保存します。

・DoS アタック ログ

DoS アタックが発生した際に、そのログを保存します。

※DoS
ネットワークを通じての攻撃の 1 つ。インターネットにつながっているパソコンやルーターなどに不正なデータを送るなどして、使用不能にさせたりする。

・インターネット接続ログ

インターネット接続に関してのログを保存します。

●ルーティング

・スタティック

「こんなときにはこの設定」「社内LANとして使用するには」(P.68)に使用例をご覧ください。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①ネットワーク・アドレス	対象となるネットワークの IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	対象となるネットワークのサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	対象となるネットワークパケットを送るためのゲートウェイもしくは本製品のIPアドレスを入力します。
④インターフェイス	パケットを送るためのインターフェースを指定します。LAN(LAN 側)もしくはWAN(WAN 側)を指定します。

※ゲートウェイ…異なるプロトコルを相互接続するために変換させる。
※インターフェース…2 つのものの間で情報のやり取りを仲介するもの。

・ダイナミック(RIP)

ダイナミック(RIP)は、ルーター間でルーティング情報をやり取りすることで、パケット転送のルートを決定します。

項目名	内　　容
① RIP (Routing Information Protocol)	使用する RIP のバージョンを選択してください。 本製品は RIPv1、RIPv2 をサポートしています。つないでいる LAN に合わせて設定してください。
② RIP 送信	RIP を送信する場合は、有効に設定します。
③ RIP 受信	RIP を受信する場合は、有効に設定します。

※RIP(リップ)
　ルーター間で使用されるプロトコルの一つで、ルーティング情報の交換などに使用されます。

・レポート

ルーティングの現在の状態を表示します。［更新］ボタンをクリックすると、最新の情報を表示します。

詳細設定 / ルーティング / レポート

接続先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	インターフェイス	タイプ
192.168.1.0	255.255.255.0	0.0.0.0	1	lan	LOCAL

更新

●その他各種設定

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・バックアップ DNS

通常のインターネット接続等の場合には使用しません。

項目名	内　　容
①バックアップDNS	バックアップ DNS の機能を使用するときに有効に設定します。
② DNS サーバー 1/ DNS サーバー 2	①で「有効」を設定したとき、入力することができます。バックアップ用の DNS サーバーのアドレスを入力します。

・E-Mail

指定したアドレスに、ログ情報を送信することができます。

項目名	内　　容
① E-Mail 設定	E-Mail送信を有効/無効に設定します。有効にするとログ情報を③で入力したメールアドレスに送信します。
② SMTP サーバー名	送信用(SMTP)サーバーのホスト名を設定します。通常はプロバイダー側から指定された SMTP サーバーを入力します。
③メールアドレス	ログ情報の送り先にしたいメールアドレスを設定します。
④ Subject	ログ情報を送るメールの件名を設定します。
⑤ユーザー名	プロバイダー側から指定された送信用アカウントのパスワードを設定します。
⑥パスワード	プロバイダー側から指定された送信用アカウントのユーザー名を設定します。
⑦すぐにアラートを送信する	チェックを付けるとDoSアタックがあった際に、随時ログ情報を③で指定したアドレスに送信します。
⑧ログメール送信スケジュール	ログ情報をメール送信するスケジュールを設定します。⑦にチェックが入っていないときは、指定された時間ごとに③で指定したアドレスにログ情報を送信します。

・リモート

インターネット(WAN 側)上で本製品の設定をしたいときに、この項目の設定を行います。

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウント選択	リモート設定を行う PPPoE アカウントを設定します。 ※ PPPoE 接続を選択しているときに表示されます。
②リモート設定	リモート設定を有効 / 無効に設定します。 有効にするとインターネット側(WAN 側)から本製品の設定を可能にします。
③ポート	1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は 80 インターネット側からの接続の際下記のようにIPアドレスの後ろに「:ポート番号」を指定してください。 例 : http://WAN 側 IP アドレス:ポート番号

リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバーなどでは使用できません。

・UPnP

UPnP 機能を使用するときに、この項目の設定を行います。

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① UPnP 使用ポート	クリックすると UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効 / 無効を選択します。 UPnP 機能によって自動的に LAN に接続された装置を検出し認識します。 UPnP 機能は Windows XP/Me でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP 対応アプリケーションで WAN IP を選択する場合に使用します。
④ WAN 側 IP のセッションを選択する	UPnP を使用するセッションを選択します。< 「PPPoE 設定」(P.33) >
⑤ WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効 / 無効を選択します。 有効にすると UPnP 機能を使用して WAN(インターネット側)を切断することができます。

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。このPARTでは、本製品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバーとデータの送受信を行うポートを、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本製品に設定する必要があります。

回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

■ UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1　設定をするアカウントを選択します
「その他各種設定」「UPnP」で(P.58)、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

・Windows にて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティーの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windows の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft にお問い合わせください。

・UPnPがサポートされているOSは、Windows XP / Meのみです。

■UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

●ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、設定ユーティリティーで次の設定を行います。

「詳細設定」－「スペシャル・アプリケーション」(P.47)で、ネットワークゲーム会社より指定されている使用ポート番号とタイプ（プロトコルのタイプ）を設定します。

ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。

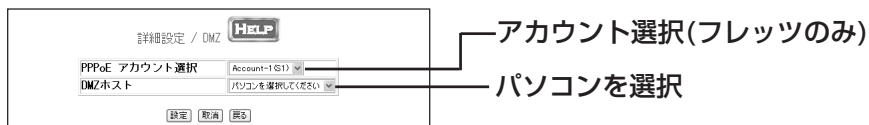
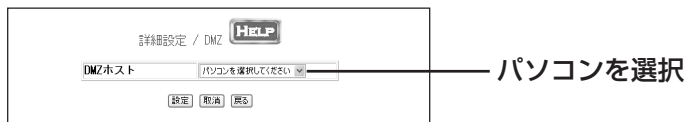
●ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「詳細設定」－「DMZ」(P.48)をクリックします。

2 「PPPoEアカウント選択」でアカウントを選択します。(フレッツ・ADSL、Bフレッツなどのみの設定)

3 「DMZホスト」でネットワークするパソコンを選択します。

〈PPPoE設定をしている場合(フレッツ・ADSL、Bフレッツなど)の画面〉

〈PPPoE設定をしていない場合(Yahoo! BB、CATVなど)の画面〉

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN　Messenger、Windows Messengerを利用する場合の設定を説明しています。
本製品では、Microsoft Windows Messenger（Ver.4.7以降)、MSN Messenger（Ver.4.6以降）およびNetMeetingに対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページをご覧ください。

■ NetMeeting

ここでは、DMZ機能を使います。「詳細設定」－「DMZ」(P.48)でNetMeetingを使用するパソコンを選択してください。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

■ Windows Messenger（Ver.4.7以降)、MSN Messenger（Ver.4.6以降）

本製品はUPnPに対応しているので、Windows Messenger、MSN Messengerを利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます。

1. 設定ユーティリティーの「その他各種設定」－「UPnP」(P.58)をクリックして、画面を開きます。
2 「UPnPを使用する」を「有効」にします。

- **MSN Messenger、NetMeetingは1台のパソコンでのみ使用できます。**
- **対応OSはWindows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。**

3. 「使用ポート」をクリックして、ポートの状態を確認します。

外部にサーバーを公開するには

■バーチャル・サーバーを使用する

バーチャル・サーバー機能を利用して外部にサーバーを公開する設定例です。

1　［詳細設定］ー「バーチャル・サーバー」をクリックします。

2　「バーチャル・サーバー」の「有効」を選択します。

3　［追加］ボタンをクリックして、接続先のパソコンを選択し、「プロトコル」、「サービスタイプ」を設定します。

「入力ポート番号」および「出力ポート番号」は、「プロトコル」で「ユーザー定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」ー「詳細設定」ー「バーチャル・サーバー」（P.45）をご覧ください。

■ダイナミック DNS を使用して URL でアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャル・サーバーなどに接続することができる設定例です。

1　「ダイナミック DNS」画面にある「DynDNS.org」(無料サービス)または「IvyNetWork」(有料サービス)をクリックして、設定を行います。そのときの「ログイン名」「ログインパスワード」「ドメイン名」は控えておいてください。

2　本製品の「ダイナミック DNS」画面に戻り、1 で設定した「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力し、［設定］ －「Login」ボタンをクリックします。

詳しくは「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「ダイナミック DNS」(P.49)をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには
（プロバイダーと、フレッツ・スクウェア／フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループ／フレッツ・コネクト／フレッツ・コミュニケーションを利用する）

■プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダーに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。
「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「セッション-1のAccount-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション-2のAccount-2」に設定する場合

1 通常のプロバイダーの設定を行います。
「WAN側設定」－「PPPoE」－「PPPoE設定」をクリックします。

2 「セッション選択」は「セッション-1」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。（例として「Account-1」を選択します。）

3 通常のプロバイダーから通知された内容(「ユーザー名」、「パスワード」)を入力し、「PPPoEサービス・タイプ」は「PPPoE」を選択します。

4 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。
「PPPoE設定」画面で「セッション-2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。（例として「Account-2」を選択します。）

5 「ユーザー名」「パスワード」は、それぞれ下記の表の内容で入力します。「DNSサーバー」は「自動設定」を選択します。

	NTT東日本のエリアのお客様	NTT西日本のエリアのお客様
ユーザー名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2004年7月現在）

6 「LAN TYPE」は「無効」にします。

7 「DNSサーバー」は「自動設定」をクリックします。

8 画面上側にある「PPPoE」のラジオボタンをクリックして、「PPPoE」画面を表示して、「接続先設定」をクリックします。

9 ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。

10「接続アカウント」を「Account-2(S2)」を選択します。（「(S2)」はセッション2を示します。）

11「ルール選択」で「ドメイン名」を選択し、「.flets/」と入力します。

12［設定］ボタンをクリックします。

13「システム設定」画面を開き、「システムリブート」を実行します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「WAN側設定」「PPPoE設定」（P.33）をご覧ください。

■プロバイダーとフレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）／フレッツ・グループ（NTT 西日本）のLAN 型払い出しに接続する

通常はプロバイダーに接続し、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しを利用して、それぞれのパソコンのファイル共有などが必要な場合に、フレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）/ フレッツ・グループ（NTT 西日本）に自動的に接続されます。フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/ フレッツ・グループ（NTT西日本）を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「アカウント 1 のAccount-1」に、「グループアクセス（NTT東日本）/ フレッツ・グループ（NTT西日本）」への接続設定を「セッション -2 のAccount-2」に設定する。

1　通常のプロバイダーの設定を行います。前ページの「プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する」の手順 1 ～ 3 を行います。

2　フレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）／フレッツ・グループ（NTT 西日本）の LAN 型払い出しの設定を行います。
「PPPoE設定」で「セッション-2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。例として「Account-2」を選択します。

3　グループ管理者から通知された「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。

4　任意の「接続方法」を選択します。

5　「LAN TYPE」を「有効」にします。

6　「ルーター IP」と「サブネットマスク」にグループ管理者から通知されている、「IP アドレス」、「サブネットマスク」をそれぞれ入力します。

7　「DNS サーバー」を「自動設定」にします。

8　[設定] ボタンをクリックします。しばらくすると再度設定画面が開きます。[戻る] ボタンをクリックします。

9　「接続先設定」をクリックして [追加] ボタンをクリックします。
「ルール選択」は「IP アドレス(FGA)」を選択します。

10「IP アドレス」にグループ管理者から通知された接続相手の IP アドレスを入力します。

11 [設定] をクリックし、リストに登録させます。

12 リストに登録された「IP アドレス」のラジオボタンが選択されていることを確認して「戻る」をクリックします。

13「システム設定」画面を開き、「システムリブート」を実行します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「WAN 側設定」「PPPoE 設定」（P.33）をご覧ください。

- **手順 9 ～ 12 で、接続先が複数ある場合はすべての接続先を登録してください。**
- **ファイル共有など、使用するアプリケーションによっては、バーチャル・サーバー（P.45）やNetBios（P.36）の設定が必要になります。**
- **IPアドレス範囲として複数のIPアドレスが割り当てられていて、それぞれのパソコンに固定IPアドレスを割り当てる場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧ください。**
- **NetBiosを使用してコンピューターを指定する場合は、WINSサーバーまたはLMHOSTSが必要です。**

■フレッツ・コネクト（NTT 東日本）を利用する

フレッツ・コネクトは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。
簡単な番号（コネクト ID）により相手先の IP アドレスを意識することなく接続できます。フレッツ・コネクトを利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「アカウント 1 の Account-1」に、「フレッツ・コネクト」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　P.60 の手順 1 ～ 3 をご覧になり、通常のプロバイダーへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コネクトの設定を行います。
「PPPoE 設定」で「セッション -2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。例として「Account-2」を選択します。

3　フレッツ・コネクトで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。

4　「DNS サーバー」は「自動設定」を選択します。［設定］をクリックして［戻る］をクリックします。

5　「接続先設定」をクリックして、フレッツコネクトの追加設定をします。

① ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」「ネットワーク」にして、「172.0.0.0/8」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。接続先設定画面に戻ります。

② ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets/」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。

③ ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.connect」を入力して［設定］ボタンをクリックします。

①～③の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

6　リストに「172.0.0.0/8」「.flets/」「.connect」が登録されていることを確認して［戻る］をクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

7　［戻る］をクリックします。

8　「その他各種設定」をクリックします。

9　「UPnP」をクリックして、「WAN 側 IP のセッションを選択する」「セッション 2」を選択して［設定］をクリックします。

10「システム設定」画面を開き、「システムリブート」を実行します。

以上で、フレッツ・コネクトを利用するための本製品の設定は終わりです。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コネクトをご利用ください。

- **PPPoE ブリッジ接続でフレッツ・コネクトを使用する場合は、「フレッツ・コネクト」セットアップガイドをご参照ください。**
- **フレッツ・コネクトをセッション 1 に設定した場合は、Windows Messenger や MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**

■フレッツ・コミュニケーション（NTT 西日本）を利用する

フレッツ・コミュニケーションは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。
簡単な番号（コネクトID）により相手先のIPアドレスを意識することなく接続できます。「フレッツ・コミュニケーション」を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「アカウント 1 の Account-1」に、「フレッツ・コミュニケーション」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　P.60 の手順 1 ～ 3 をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コミュニケーションの設定を行います。「PPPoE 設定」で「セッション -2」を選択し、フレッツ・コミュニケーションで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。

3　「DNS サーバー」は「自動設定」を選択します。

4　[設定] をクリックして設定内容を保存し、[戻る] をクリックします。

5　「接続先設定」－ [追加] をクリックして「接続先設定」画面を表示させます。

6　「接続先設定」をクリックして、フレッツ・コミュニケーションの追加設定をします。

① [追加] ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」「ネットワーク」にして、「219.111.224.0/20」を入力し、[設定] ボタンをクリックします。接続先設定画面に戻ります。

② [追加] ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets-c.jp」を入力し、[設定] ボタンをクリックします。

①②の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

7　リストに「219.111.224.0/20」「.flets-c.jp」が登録されていることを確認して [戻る] をクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

8　[戻る] をクリックします。

9　「その他各種設定」をクリックします。

10　「UPnP」をクリックして、「WAN 側 IP のセッションを選択する」は「セッション 2」を選択して [設定] をクリックします。

以上で、フレッツ・コミュニケーションを利用するための本製品の設定は終わりです。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コミュニケーションをご利用ください。

- **UPnP を使用するセッションをフレッツ・コミュニケーションで接続するため、Windows Messenger や MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**
- **PPPoE ブリッジ接続では、フレッツ・コミュニケーションはご利用できません。（2004 年 3 月末現在）**

■複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダーが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダーから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本製品および本製品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバー公開などが可能になります。

例: 本製品の元の設定…IPアドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダーからの情報
IPアドレス	XXX.○○○.□□□.113～XXX.○○○.□□□.120
サブネットマスク	255.255.255.◆◆◆
DNSサーバー	12.34.56.12

設定するパソコンのIPアドレスを「XXX.○○○.□□□.115」と設定したい場合

1 「WAN側設定」－「PPPoE」画面を表示させて、任意のアカウントを選択して、「ユーザー名」「ユーザーパスワード」を入力します。

2 その他を以下のように設定します。
・PPPoEサービス・タイプ →「Unnumbered IP」にします。
・ルーターIP →「XXX.○○○.□□□.113」と入力します。
（プロバイダーから割り当てられた最初のIPアドレスが入ります）
・サブネットマスク →「255.255.255.◆◆◆」と入力します。
・DNSサーバー →「12.34.56.12」と入力します。

2 ［設定］ボタンをクリックします。

3 「システム設定」画面から「システムリブート」の［実行］ボタンをクリックします。

リブートが終了すると、設定が全て終了するまで本製品の設定画面が表示されなくなります。

4 設定するパソコンの固定IPアドレスを以下のように変更します。
・IPアドレス →「XXX.○○○.□□□.115」（設定したいIPアドレス）
・サブネットマスク →「255.255.255.◆◆◆」
・デフォルトゲートウェイ →「XXX.○○○.□□□.115」(IPアドレスと同じで可)

変更方法は各OSの取扱説明書をご覧ください。

5 本製品の設定画面を再度見る場合は、ブラウザー画面で入力する数値を、「WAN側設定」で設定した「XXX.○○○.□□□.113」を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「PPPoE設定」（P.33）をご覧ください。

Unnumberedを利用する場合は、「LAN側設定」(P.31)でLAN(パソコン側)に固定IPアドレスを設定する必要があります。

社内LANとして使用するには

本製品は企業やSOHOのLAN内のローカルルーターとして使用する「ローカル・オフィス」機能(P.37)を選択し、ネットワークを分けることができます。

■設定手順

LAN側の設定をする(本ページ)

本製品をローカルオフィスモードにする(次ページ)

(本製品の上位にあるルーターをスタティックルート設定にする)

※上位にあるルーターの設定は、上位ルーターの取扱説明書をご覧ください。

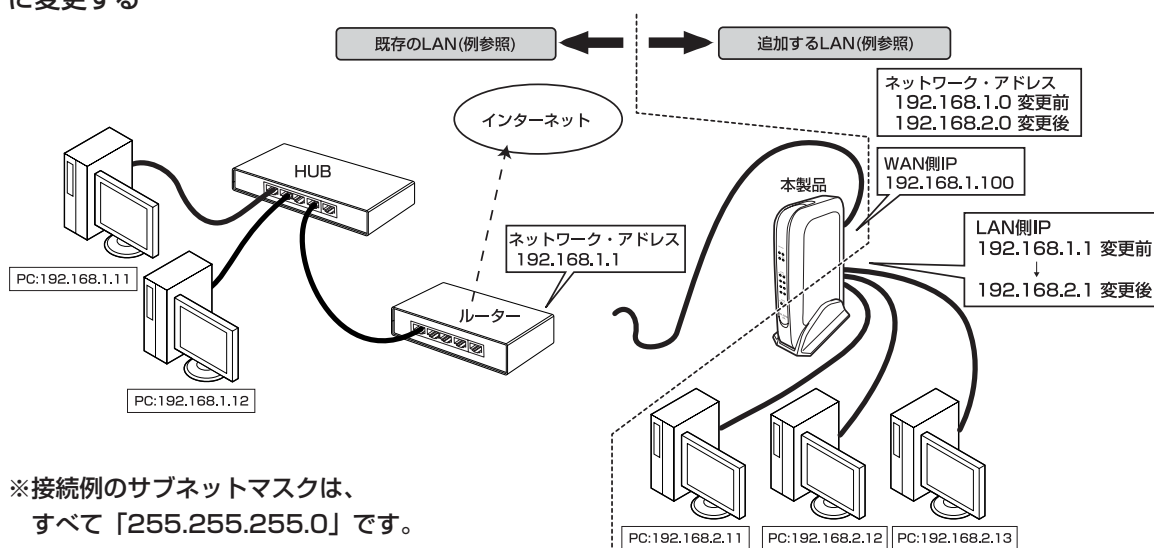
ここでは次のネットワーク環境を例として説明しています。

既存のLAN:(ルーターのWAN側):	ネットワーク・アドレス	→ 192.168.1.0
	サブネットマスク	→ 255.255.255.0
追加するLAN(ルーターのLAN側):	ネットワーク・アドレス	→ 192.168.2.0
	サブネットマスク	→ 255.255.255.0
WAN側IPアドレス:	−	→ 192.168.1.100

※値はすべて一例です。実際に入力する値は、ご使用の環境に合わせてください。

■LAN側の設定

上位ルーターのネットワークと本製品のLAN側ネットワークが重複する場合にLAN側の設定を変更する必要があります。ここではLAN側IPアドレスの変更方法について説明します。

例:これからつなぐ上位ルーターとネットワークが重複するため、「192.168.1.1」を「192.168.2.1」に変更する

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。

LAN側の設定をするときは本製品と上位ネットワークとは接続しないで行ってください。

1　設定画面から「LAN 側設定」をクリックします。

2　下記の項目を設定します。

・LAN 側 IP アドレスは、本製品の LAN 側の IP アドレスを入力します。
例:192.168.2.1（工場出荷時「192.168.1.1」から変更した場合）

・サブネットマスクは本製品の LAN 側ポートに付けるサブネットマスクを入力してください。
例:255.255.255.0

3　［設定］をクリックします。LAN 側の設定が保存されます。

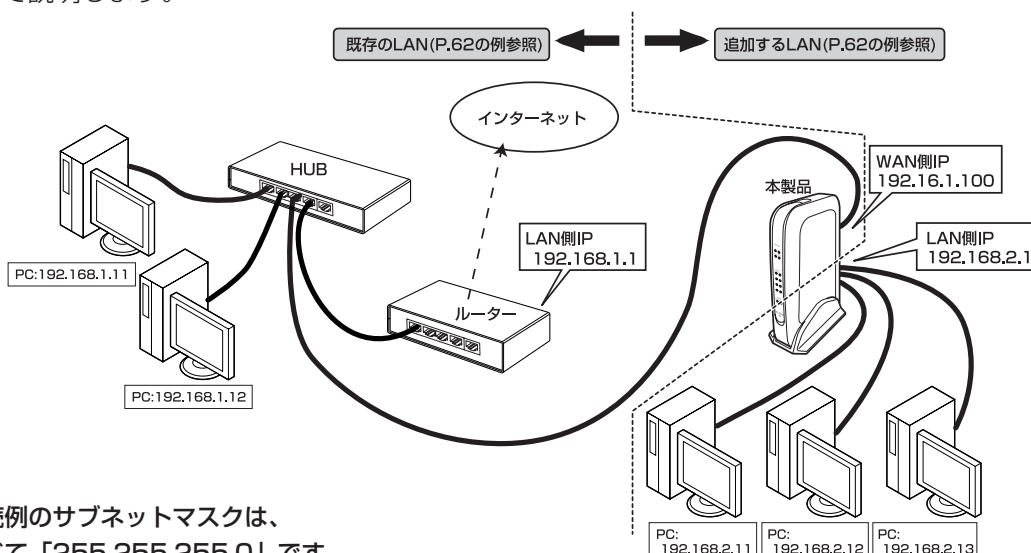
［設定］をクリックすると、LAN 側の IP アドレスが変更され、ユーティリティー設定画面が表示されなくなります。再度ユーティリティー画面を表示させるには、変更した LAN 側 IP アドレス（例では 192.168.2.1）をブラウザーのアドレス欄に入力し、［移動］ボタンをクリックすると表示されます。表示できない場合は、ルーターの電源を入れ直してください。

パソコンの IP アドレスは自動取得に設定します。

以上で本製品の LAN 側 IP アドレスの設定ができました。

次に「ローカル・オフィスモードの設定」(本ページ)を行います。

■ローカル・オフィスモードの設定

本製品が工場出荷状態のままのときは、追加するLANは以下のアドレス構成となり、動作モードはWAN側 IP(自動取得)モードになっています。
ここでは「WAN 側設定」で本製品をローカル・オフィスモードに変更して、WAN 側 IP アドレスを設定する方法で説明します。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。

1　本製品を上位ネットワークに接続します。

2　本製品に接続しているパソコンを起動します。

3　本製品の設定画面を開き、「WAN 側設定」をクリックします。

4　「ローカル・オフィス」をクリックします。(P.37)

5　必要な設定内容を入力します。

・WAN側IPアドレスに本製品のWAN側ポートに付けるIPアドレス(192.168.1.100〈P.62の例参照〉)を入力してください。

・他のルーターに対して、WAN 側 IP アドレスに入力した IP アドレスが「ゲートウェイ(ルーター)として登録されます。WAN側のIPアドレスが変わってしまう可能性のあるDHCPクライアント機能はOFFになります。(WAN 側の IP アドレスは固定になります。)

・RIPが使用できないときは、手動で他のルーターにルーティングの設定を行ってください。詳しくは「スタティックルートの設定」(P.71)をご覧ください。

・サブネットマスク(255.255.255.0〈P.62 の例参照〉)を入力してください。

・デフォルトゲートウェイ(192.168.1.1〈前ページイラスト例参照〉)を入力してください。デフォルトゲートウェイは、本製品とつながっている上位のルーターの LAN 側 IP アドレスを入力します。

・DNS サーバー 1、2 は、社内にある DNS サーバーの IP アドレスか、プロバイダーから指定された DNS サーバーの IP アドレスを入力してください。

DNS サーバーが 1 つしか指定されなかったときは、「DNS サーバー 1」に入力してください。

6　[設定] をクリックします。「リブートしますか?」というメッセージが表示されるので、[OK] をクリックします。

7　リブート後、「詳細設定」－「セキュリティ」画面を表示させて、「ステートフルインスペクション」を“無効”にします。

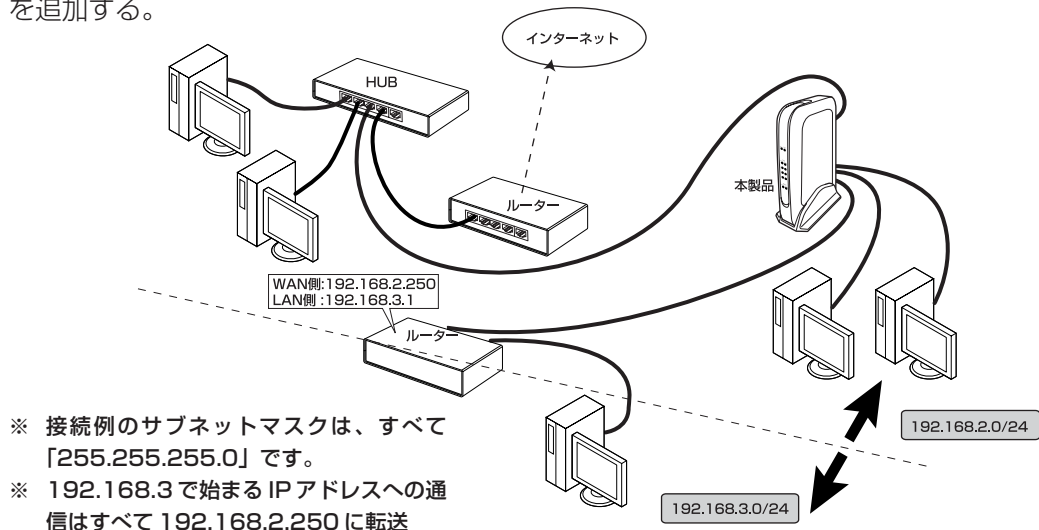
以上でローカル・オフィスモードに設定することができました。

その他のルーティング設定例

ここでは本製品の下位にルーターを追加する場合を説明します。

■ スタティックルートの設定

隣接するルーターがRIPに対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。
例:「ネットワーク・アドレス:192.168.3.0、サブネットマスク:255.255.255.0」というネットワークを追加する。

※ 接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。
※ 192.168.3で始まるIPアドレスへの通信はすべて192.168.2.250に転送

1　設定画面から「詳細設定」－「ルーティング」－「スタティック」をクリックして、［追加］ボタンをクリックします。

2　以下の設定を行います。

①ネットワーク・アドレスは、通信の宛先となるネットワークのアドレスを入力してください。

(例:192.168.3.0)

②サブネットマスクは、ネットワーク・アドレス欄に入力したアドレスのどこまでがネットワークアドレスであるかを表す数値です。

(例:255.255.255.0)

③ゲートウェイは、ネットワーク・アドレス欄とサブネットマスク欄で指定した宛先への経路となるルーターのIPアドレスを入力してください。

(例:192.168.2.250)

④インターフェイスは、ゲートウェイ欄で指定したルーターが、LAN側とWAN側のどちらに存在しているのかを選択してください。

(例:LANを選択)

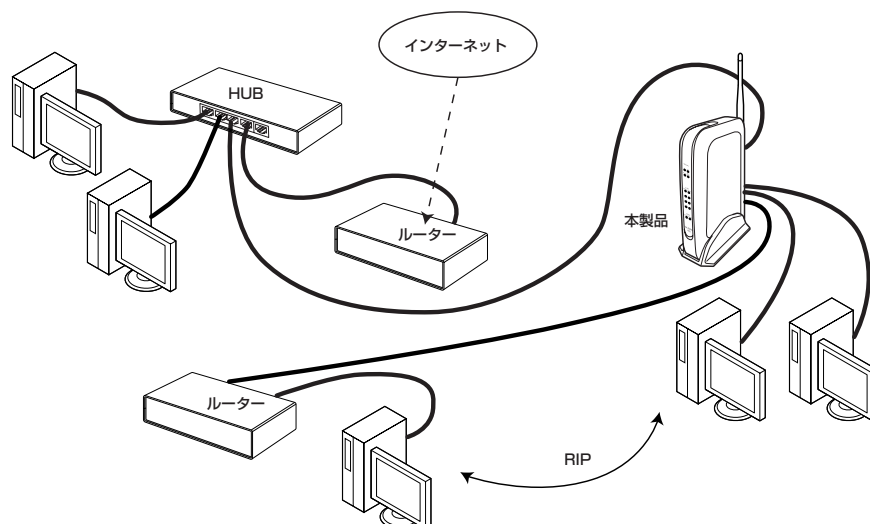
3　［設定］をクリックします。ルーティング画面に設定が追加されます。

4　「システム設定」画面を表示させて、「システムリブート」の［実行］ボタンをクリックして、再度システムリブートを実行します。

■ RIP の設定

LAN 側の別途ルーターが存在する場合は、そのルーティング経路を本製品に設定する必要があります。本製品はダイナミックルーティングプロトコルであるRIP 機能に対応していて、隣接するルーターとRIP によって、自動的に経路の情報を交換できます。

・隣接するルーターがRIP に対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。〈「スタティックルートの設定」(P.71)〉

・本製品のRIP 機能はLAN 側のみに設定できます。

1　設定画面から「詳細設定」－「ルーティング」－「ダイナミック(RIP)」をクリックします。

2　以下の設定を行います。

・RIP バージョンは、RIP 機能を使用するかどうか、使用する場合はバージョン(v)1 か 2 を選択します。隣接するルーターにも同様にバージョンを選択します。

・RIP 送信 / 受信は、RIP を送信するか、受信するかを選択します。

3　［設定］をクリックします。

4　「システム設定」画面を表示させて、「システムリブート」の［実行］ボタンをクリックします。

トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

①取扱説明書や契約書を確認する。管理者に確認する

②このPARTのQ&Aを確認する

〈トラブルは？〉

インターネットに接続できない
- ①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？
- ②電源は入っていますか？
- ③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
- ④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
- ⑤その他の接続は大丈夫ですか？
- ⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
- ⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
- ⑧プロバイダーからの入力事項を正しく設定しましたか？
- ⑨Webブラウザーの設定は正しいですか？

パソコン同士がつながらない
- ・ファイルやプリンターが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

本製品の設定ユーティリティーが起動しない

本製品の設定ユーティリティーにログインできない

ファームウェアのアップデートに失敗した

〈疑問は？〉

パソコンのIPアドレスを調べたい

本製品のパスワードを変更したい

最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の設定のバックアップを取る。元に戻す

本製品を再起動する

本製品を工場出荷時の状態にもどす

③コレガのホームページの情報を活用する

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

詳しくは、最終ページの「製品に関するご質問は…」をご覧ください。

取扱説明書や契約書を再確認する / 管理者に確認する

本書以外にもプロバイダー契約時の設定取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダー、パソコンのメーカーなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

■インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し☑のようにチェックを付けてください。

①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？

Bフレッツまたはフレッツ・ADSL＋対応プロバイダーなどの場合

□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか

□Bフレッツまたはフレッツ・ADSLに対応したプロバイダーの工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源LEDがついているか、またはACアダプターなどが外れていないかを確認してください。

□ADSLモデムまたは回線終端装置などに電源が入っているか（ACアダプターが外れていないか）

□本製品に電源が入っているか（ACアダプターが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

□モデム（ADSLモデム、回線終端装置）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が正しく接続されているか

詳しい接続については、モデムや回線終端装置に付属の取扱説明書をお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本製品とADSLモデムまたは回線終端装置はLANケーブルで正しく接続されているか

本製品とモデムが正常に接続されているとWAN LEDが点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、モデムにMDI/MDI-Xを切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。

□本製品とパソコンはLANケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各LANポートのLink/Act LEDが点灯します。パソコンにLANボードまたはLANカードがきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認しましょう。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

フレッツ・ADSLの場合

□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用とADSLモデム用があります）

ADSLモデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプタのドライバーの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.8) をご覧になり、パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.8) をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。

□割り当てられた固定IPアドレスなどが設定されているか

プロバイダーから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、下記の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・Windows XPの場合(P.8)

「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順7「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows 2000の場合(P.11)

「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows Me/98/95の場合(P.15)

「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

⑧プロバイダーからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」(P.22) で行ったプロバイダーからの設定事項をすべて設定ユーティリティーに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨ Web ブラウザーの設定は正しいですか？

□ Web ブラウザーの設定項目は正しいか

Web ブラウザーの設定についてはプロバイダー契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。
Windows 95/98 をお使いで、はじめてインターネットに接続した場合、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1. ［スタート］ー「プログラム」ー「通信」ー「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
2. 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。
3. 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。
4. 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。
5. 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、［次へ］をクリックします。
6. 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いの OS によっては Web ブラウザーの設定を変更する必要があります。プロバイダー契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。

■パソコン同士がつながらない

●ファイルやプリンターが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品の LAN ポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows では Microsoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプをご覧ください。

■本製品の設定ユーティリティーが起動しない

●パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか再度確認してください。

●プロキシサーバーを使う設定になっていませんか？

□Webブラウザーのプロキシサーバーの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「Webブラウザーの設定をしよう」（P.19）をご覧になり、Webブラウザーでプロキシサーバーを使用しない設定にしてください。

●すでにフレッツ・ADSL/Bフレッツに接続している場合は

これまでパソコンにADSLモデムなどを直接接続して、フレッツADSL/Bフレッツに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

□Windows XPで、PPPoE接続の設定がされていませんか？

Windows XPの「コントロールパネル」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルーターの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

□「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTTより配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、フレッツ・ADSL/Bフレッツに接続するように設定されていると、ルーターの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

■本製品の設定ユーティリティーにログインできない

●別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

●パスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.84）をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、このPARTの「本製品のログイン名（ユーザー名）パスワードを変更したい」（P.83）をご覧になり、再設定してください。

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。
本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.84）をご覧ください。

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■パソコンのIPアドレスを調べたい

本製品よりパソコンに割り当てられたIPアドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

● Windows XP/2000の場合

1　［スタート］－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

※画面例
「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

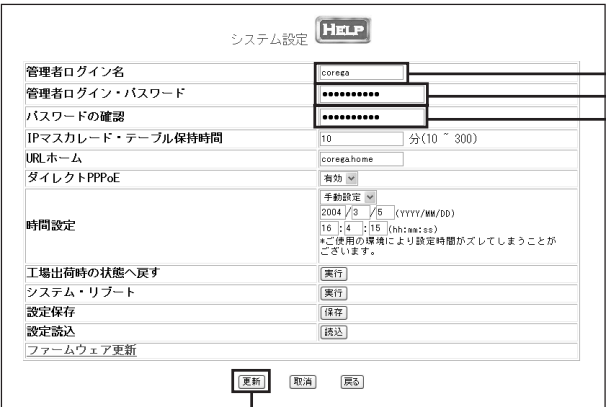
3　IPアドレスを確認します。

※正しく表示されない場合は、「ipconfig /renew」と入力して、「Enter」キーを押します。
半角スペースを入力します。

● Windows Me/98/95の場合

1　［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］をクリックします。

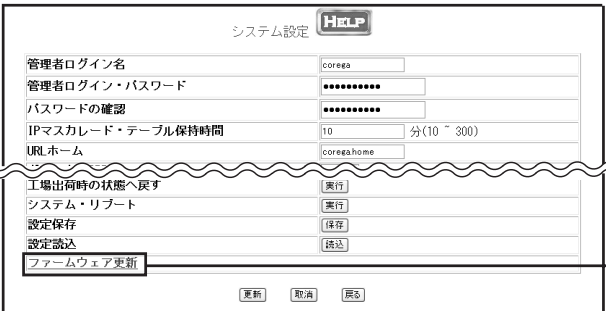
3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択します。パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［すべて書き換え］をクリックしてください。

■本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードを変更したい

本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　管理者ログイン名、管理者ログインパスワードにログイン名と新しいパスワードを入力して［更新］をクリックします。

ログイン名およびパスワードで空白を設定すると、認証を行わずに設定ユーティリティーにアクセスすることができます。

■最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは当社のホームページ(http://www.corega.co.jp/)から入手してください。

・更新するファームウェアのバージョンによっては、更新前のお客様が設定されたデータが反映できない場合があります。

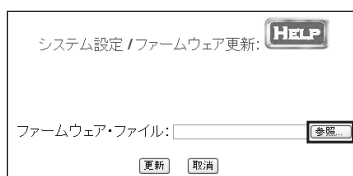
・ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。

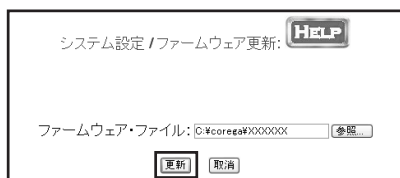
・ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。

ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　［ファームウェア更新］をクリックします。

3　［参照］をクリックします。

4　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］をクリックします。

5　パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから［更新］をクリックします。

6　次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。ファームウェアの更新処理が開始されます。

7　本製品前面の「Self test」LEDが消灯していることを確認します。

8　しばらくすると画面がトップのページに戻ります。

9　Initスイッチを使って本製品を再起動してください。詳しくは「本製品を再起動する」（P.83）をご覧ください。

ファームウェアのアップデートの再起動はInitスイッチを使用してください。

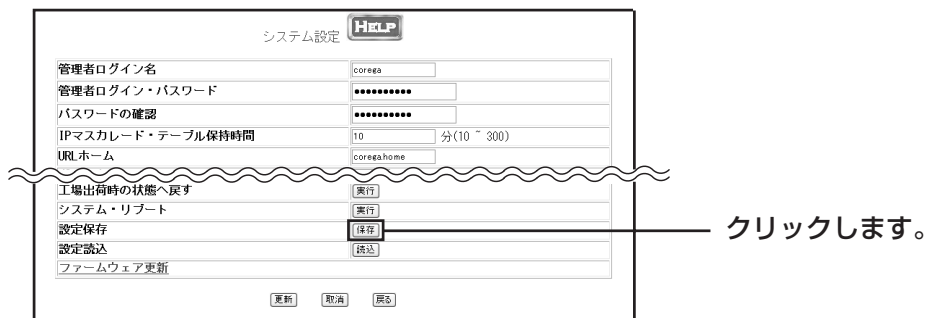
以上で、ファームウェアの更新は終了です。

■本製品の設定のバックアップを取る / 元に戻す

現在の設定内容をバックアップし、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

●バックアップを取る

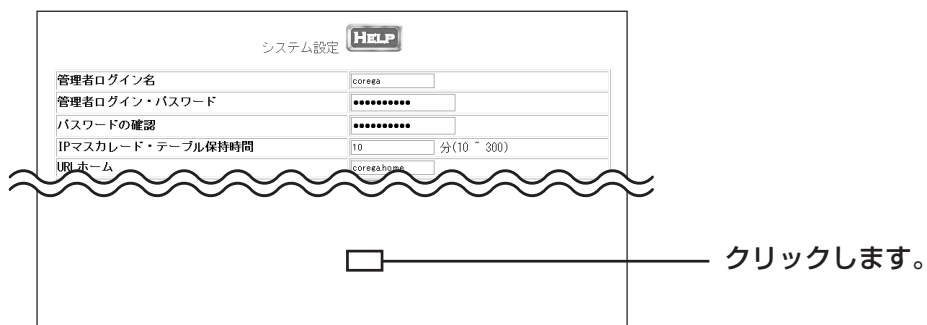
1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面表示させせます。

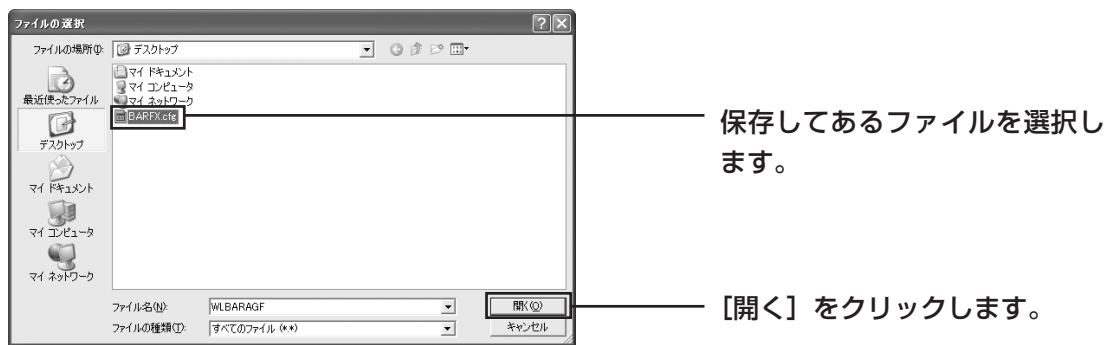
2　設定保存の[保存]をクリックします。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存先を指定して［保存］をクリックします。

●元に戻す

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させせます。

2　設定読込の［読込］ボタンをクリックします。

3　設定ファイル画面が表示されたら、[参照] ボタンをクリックします。

4　前ページ「本製品の設定のバックアップを取る」で保存したファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

5　［読込］ボタンをクリックします。

以上で、本製品を元に戻すことができました。

■本製品を再起動する

本製品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」「工場出荷時の状態に戻す」とは異なりますのでご注意ください。
再起動には、次の２つの方法があります。

● Init スイッチを使う

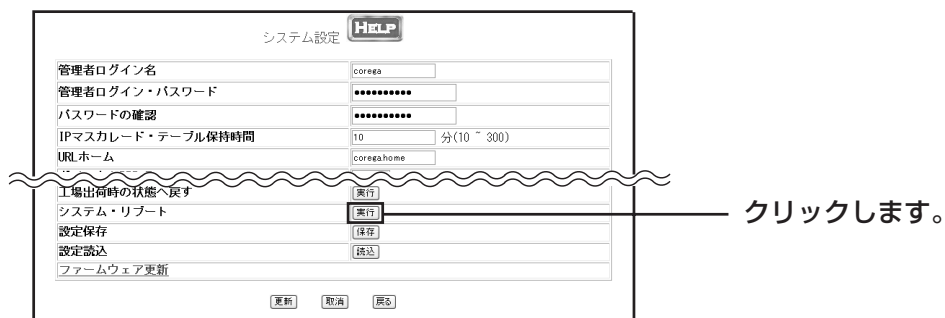
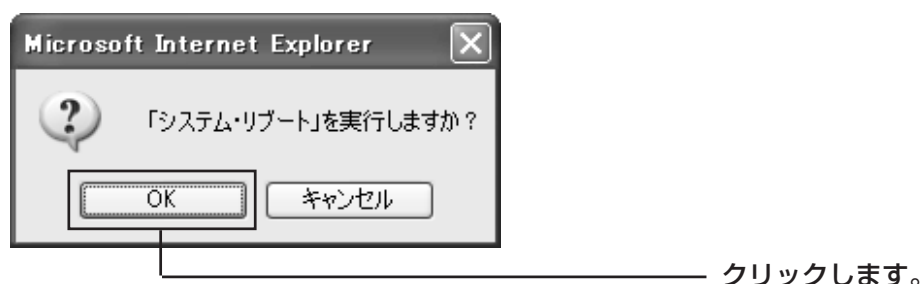
1　本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にある Init スイッチを押します。

2　Status LED が点灯し、しばらく点滅を始めたら、Init スイッチを離します。

Status LED が消灯すれば、再起動の完了です。

●設定ユーティリティーを使う

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　システム・リブートの［実行］ボタンをクリックします。

3　「システム・リブートを実行しますか?」と表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。

システム・リブート中に、Power LED が消え、再び点灯したら、再起動の完了です。

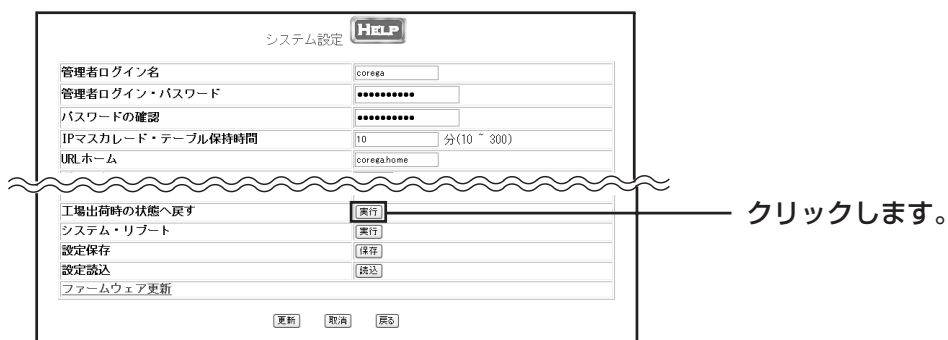
■本製品を工場出荷時の状態に戻す

本製品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定した情報が初期値になります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり「バックアップを取る / 元に戻す」(P.82)をして、後で再設定できるようにしておいてください。
工場出荷時の状態に戻すには、次の 2 つの方法があります。

● Init スイッチを使う

1. 本製品の電源がオンの状態で、背面のInitスイッチを押します。Initスイッチはゼムクリップなど堅くて細いもので押してください。
2. Self Test LED が点滅したら Init スイッチを離します。
3. Self Test LED が消灯したら、本製品が工場出荷状態に戻ります。

●設定ユーティリティーを使う

1. 設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。
2. 「工場出荷時の状態へ戻す」の[実行]ボタンをクリックします。

3. 「工場出荷時の状態に戻す」を実行しますか? と表示されるので、[OK]をクリックします。

「処理しました」と表示されますので、「完了」をクリックします。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

コレガホームページ　http://www.corega.co.jp/

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダーに対して事前申請してください。
本製品の WAN 側の MAC アドレスは本体背面に記入されています。
LAN 側の MAC アドレスについては、設定ユーティリティーのステータスで確認できます。（P.43）

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

2004 年４月　初版
2004 年８月　第二版